

財 団 法 人 東 洋 文 庫 年 報

昭 和 50 年 度

財 団 法 人 東 洋 文 庫

財団法人 東洋文庫年報 昭和50年度

目 次

I 昭和50年度の東洋文庫	3
II 図書事業	5
1. 図書の収集・整理と閲覧	5
2. 図書の整理と閲覧	6
3. 資料複製増刷サービス	7
4. 展示会	7
III 研究事業	9
1. 調査研究	9
i 文部省科学研究費による調査研究	9
ii 一般調査研究	10
iii 特別調査研究	12
iv 研究委員会	15
2. 学術図書出版	15
3. 講演会	16
4. 研究会	17
5. 研究者養成	17
6. 国内・国外研究者への便宜供与	17
7. 職員の研究業績	17
IV 業務報告	30
1. 庶務報告	30
2. 人事報告	32

3. 会 計 報 告	33
V 役 職 員 名 簿	39
1. 役 員	39
2. 東洋学連絡委員会委員	40
3. 名 誉 研 究 員	40
4. 職 員	41
5. 臨 時 職 員	42
VI 東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター事業	43
1. 調 査 研 究 事 業	43
2. 連 絡 お よ び 情 報 交 換 事 業	48
3. 資 料 の 調 査 ・ 収 集 事 業	50
4. 学 術 図 書 出 版 事 業	51
5. 語 学 講 習 会	53
6. 国 際 交 流 事 業	54
7. 業 務 報 告	56

I 昭和50年度の東洋文庫

東洋文庫の目指しているところは、アジア諸地域についての、さらにアジア全体についての人文科学的・社会科学的研究に必要な基本的資料を蒐集し、それを整理して専門研究者の利用に供し、さらにそれらの研究者に交流の場を提供して、世界の東洋学の発達に寄与することである。東洋学に領域を限ってみても、一つの図書館にあらゆる分野の研究者の必要とするあらゆる種類の資料を取揃えることは不可能である。しかし、多くの種類の研究や調査を行うに当って、先ず基礎になる一通りの資料が見られ、それ以上の特殊なものはそれぞれの所蔵機関について採訪する、その基礎的作業を一通り行うことの出来る場所を作ることは必ずしも不可能ではないばかりでなく、どうしても必要である。東洋文庫の目指しているのは、何よりもまずそうした基本的作業を行い得る場所であることである。

一方、東洋文庫はそこにしか見られないような特殊な、個別的な資料の系統的組織的蒐集を持っている必要がある。その研究は東洋文庫に行かなければ出来ない、東洋文庫に行けばそこだけで出来るという部分を有っていなければならない。

幸に東洋文庫は過去50年の積重ねによってこれら2つの種類の資料について見るべき蒐集を有している。更に特筆すべきことは、東洋文庫が絶えず新しい資料を追加することによって、その蒐集を補充しつつあることである。それは正に「日に新に、又日に新なり」と言うべきもので、東洋学の多くの部門において現代の最高水準を踏えて研究することの出来る喜びは、東洋文庫を利用する何人にも実感されているところであろう。

こうした東洋文庫の活動を支えているのが研究部である。日本人研究員50名、外国人名誉研究員13名（後述するエリセーエフ氏の逝去によって12名に減った）。いずれもそれぞれ独自の研究に従事する一方、所属する研究班の協同研究を分担し、更に蒐集すべき図書を選択、研究報告の出版、東洋学講座の開催について協力している。国内及び国外学界との連絡もまたこれら研究員の重要な任務である。この意味で研究部こそ東洋文庫の活動の中核といてよい。

東洋文庫の研究部について一言して置くべきことは、その研究員には何等給与が支給されていないことである。研究部には専任の事務員一人がいる。これは有給であるが、研究部員ではあっても研究員ではない。研究部長は東洋文庫専務理事が兼任しているが、部長給というものはない。そもそも専務理事そのものが無給なのである。人

或いは研究員の数の多いのを見て、それに要する俸給が東洋文庫の財政を窮屈にしているのだと考え、東洋文庫の財政の建直しには何よりもまず研究部を廃止すべきであるという。研究員が無給で東洋文庫のために奉仕している、東洋文庫こそが研究員に寄生しているということは、名在る所に必ず収入があり、中には会長を辞任しても会長として受けていたのと同額の給与が引続き与えられる機関もあるという世間の実情からは、想像も及ばないであろう。勿論、給与があるに越したことはない。しかし、出す余裕がないとすれば、仕方がないのである。それは目的が異なるからである。研究員として東洋文庫に協力しているのは、東洋文庫を一層よくしようとするからである。東洋文庫をよくすることは研究員自身の研究をより完璧に行うことを可能にするからである。出来れば他の学校等で教えて生活の資を得るのではなく、東洋文庫だけで研究に専心出来るようにしたい。しかし、中中その見通しはつかない。

東洋文庫に対して毎年日本政府から事業費の補助が与えられている。それは研究部を中心に行われる事業に対してである。国家からこうした補助を与えられているのは研究部があるからである。東洋文庫をして活きた学術機関たらしめているのは研究部なのである。研究部なき東洋文庫は単なる保存図書館という植物的存在にすぎない。

昭和50年は所謂石油ショックによって日本の生産活動が停滞し、経済界に不況を来し、国家の財政も亦退歩を余儀なくせられた第一年である。補助金・寄附金が伸び悩み、東洋文庫の財政は一層容易でなくなった。これをどう打開するか。それが今後の東洋文庫に課せられた最も切実な問題である。

昭和50年度には悲しい訃報が三つあった。50年4月13日には外国人名誉研究員セルジュ=エリセエフ氏が、7月25日には研究員鈴木俊氏が、51年1月30日には、東洋文庫創立の前年大正12年から昭和38年まで用務員として勤務した箕輪友吉氏が逝去せられた。エリセエフ氏は昭和33年以来研究員として、鈴木氏は昭和35年以来研究員として、昭和37年以来東洋学連絡委員会委員として、東洋文庫の発展に寄与せられる所が大きかった。中でもエリセエフ氏はハーヴァード=エンチン研究所長(1934—56)であった当時、同研究所財団を説いて細川護立氏が理事長をして居られた東洋文庫に対し何年かに亘って財政援助をするよう斡旋せられた。このハーヴァード=エンチン研究所財団からの援助が、どれほど東洋文庫の、延いては日本東洋学界の発展に役立ったか判らない。ここに記して、三氏の冥福を祈る。

II 図書事業

1. 図書の収集・整理と閲覧

購入・交換・受贈の手段を通して収集をはかった資料は、一般文献資料のほか、特に中央アジア特別研究資料・東アジア特別研究資料・西アジア特別研究資料がある。昭和50年度末現在の蔵書数は569,542冊となった。

・資料購入

	和漢書	洋書	複写資料	計
一般文献資料	172冊	98冊	0リール	270
中央アジア特別研究資料	0	196	12	208
東アジア特別研究資料	1,827	0	2	1,829
西アジア特別研究資料	0	236	0	236
計	1,999	530	14	2,543

・資料交換

	受 贈			寄 贈		
	和漢書	洋書	計	国内	国外	計
単行本	1,345冊	2,534冊	3,879冊	622冊	744冊	1,366冊
定期刊行物	2,182 (新聞10種)	1,187	3,369 (新聞10種)	958	460	1,418
計	3,527	3,721	7,248	1,580	1,204	2,784

・まとまった受贈図書としては、昭和50年4月14日、黒板昌夫氏から寄贈された黒板勝美氏旧蔵の24部27冊1軸2枚226葉の図書資料等と、昭和50年5月13日、7月2日東方学研究日本委員会から寄贈された105部229冊の図書がある。

2. 図書の整理と閲覧

・製本数量内訳

・本年度の製本施工数量は下記の通りである。

	単行本	定期刊行物	複写資料製本	複写資料製帙	その他
数量(冊)	7	1,042	143	365	534

・図書利用状況

本年度の所蔵図書の利用状況ならびに内訳は次の通りであった。

月	開館日数	閲覧人数	一日平均	昨年同月との比 (△印は減)	閲覧数	一日平均	昨年同月との比 (△印は減)
4	24日	277人	11人	△ 28人	4,066冊	169冊	△160冊
5	24	386	16	△ 51	5,637	235	△539
6	24	460	19	12	7,363	307	1,266
7	26	547	21	24	9,654	371	643
8	25	503	20	△ 45	10,116	404	98
9	23	469	20	48	8,747	380	541
10	25	555	22	10	10,273	411	2,192
11	19	373	20	△ 82	5,395	284	△2,401
12	22	425	19	△ 3	8,143	416	1,466
1	21	246	11	△ 14	4,008	200	230
2	22	231	11	△ 64	3,710	168	△1,013
3	25	341	13	12	5,877	235	735
計	280	4,813	17		82,989	298	

・閲覧図書数内訳

月	和書		漢籍		洋書		合計	
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数
4	236	553	512	3,271	142	242	890	4,066
5	364	530	813	4,862	156	245	1,333	5,637
6	308	558	1,106	6,361	265	444	1,679	7,363
7	290	450	1,234	8,722	236	482	1,760	9,654

8	304	515	1,098	9,168	195	433	1,597	10,116
9	199	300	1,186	8,057	215	390	1,600	8,747
10	353	651	1,299	9,116	257	506	1,909	10,273
11	265	584	656	4,492	192	319	1,113	5,395
12	339	691	931	7,085	241	367	1,511	8,143
1	243	434	477	3,178	198	396	918	4,008
2	213	369	442	2,919	144	422	799	3,710
3	216	478	827	4,809	211	590	1,254	5,877
計	3,330	6,113	10,581	72,040	2,452	4,836	16,363	82,989

3. 資料複製増刷サービス

内外研究者・研究機関の閲覧・利用の便に供するために行なったもので、実績は下記の通りであった。

・マイクロ・フィルム

申 込 件 数	撮 影 駒 数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
733	68,438	66,155	99,270

・電子複写

申 込 件 数	撮 影 枚 数
1,549	115,827

4. 展 示 会

第58回東洋文庫展示会

蘭学資料研究会第17回大会に協賛して、藤井文庫および河口信広氏寄贈本中から、南蛮流・阿蘭陀流医術関係、杉田家関係、コレラ書関係、河口信順が天真楼に在塾中に筆写した医書などと、「シーボルトの「日本」、門人論文と“Nippon”草稿、江戸参府紀行関係草稿などを公開展示した。期日は昭和50年9月13日・14日の二日間で、参観記帳者は93名であった。

第59回東洋文庫展示会

東洋文庫設立50周年記念特別図書（善本図書）展示会として、和・漢・洋にわたる古版の善本を展示し、洋書はヨーロッパ人の東洋への関心と紹介の書を、和書は中世以降、日本人の海外への関心と、文化交流を物語る資料を、又漢籍及び朝鮮本は、史料価値のある稀覯書を撰んで展示した。期日は昭和50年11月7日より9日までの三日間で、参観記帳者は381名であった。なお、11月7日は東方学会の、また11月8日・9日は史学会の協賛をえて行った。

Ⅲ 研究事業

1. 調査研究

調査研究は、文部省科学研究費によるものと、文部省民間学術研究機関補助金による一般・特別調査研究とに分かれる。

i 文部省科学研究費による調査研究

一般研究A

【課題】 イスラム社会の構造に関する歴史的研究

【期間】 昭和50年度

【目的】 ①インド・東南アジア②中国領およびソ連領の中央アジア ③西アジア・北アフリカの3地域にわたるイスラム社会について次の様な調査研究を行なった。

A) イスラム文化受容の歴史的過程の研究

B) イスラム文化の受容による諸地域の社会構造の変容過程の研究

C) イスラム化した諸地域の社会構造の比較研究

【事業】 A) インド・東南アジア, 中国領およびソ連領中央アジア, 西アジア・アフリカの3地域におけるイスラム文化に関する現地語, あるいは欧文の図書資料, およびマイクロ・フィルムの収集と整理。

B) インド・東南アジア班, 中央アジア班, 西アジア・北アフリカ班による研究会の開催, および総合的研究会の開催。

【代表者】 辻 直四郎

【分担者】 ①インド・東南アジアのイスラム社会の構造, 辻 直四郎, 荒 松雄, 生田 滋, 池端雪浦, 山崎元一, 山本達郎,

②中央アジアのイスラム社会の構造, 榎 一雄, 松村 潤, 岡田英弘, 土肥義和,

③西アジアのイスラム社会の構造, 護 雅夫, 永田雄三, 花田宇秋, 後藤明, 志茂碩敏,

一般研究D

【課題】 敦煌出土寺院関係古文書の基礎的研究

【期間】 昭和50年度

【目的】 当文庫に収集された漢文古文書中、特に仏教寺院関係文書の古文書学的、書誌学的な整理・研究を通じて、断簡と化した現文書の復元化を図り、更にその史料を分析研究する事によって敦煌仏教寺院経営の実態を究明し、唐宋変革期の諸問題を解く上での素材を得ようとするものである。

【事業】 ①文書史料の収集

東洋文庫未収パリ国立図書館所蔵ペリオ蒐集敦煌文献並びにその他所蔵の敦煌文献中より、寺院経営に関するあらゆる文書史料をマイクロ・フィルムや写真複製等によって収集する。(i)ペリオ蒐集の敦煌文書はパリよりマイクロ・フィルムによって直接購入し、更にその写真複製を作成する。(ii)天理・大阪・京都・東京などの諸機関や個人が私蔵するものでフィルム化の困難なものは写真複製、或は手写によって収集する。

②文書史料の整理・研究

【代表者】 土肥義和

特定研究(2)

【課題】 两大戦間の中国をめぐる国際情勢

【期間】 昭和50年度

【目的】 两大戦間の中国革命を規定した要因を①社会経済、②政治外交の二側面から国際的情況の中で分析・研究する。

【事業】 国民党及び共産党の成立、国共合作、国共分裂、国共内戦等の国際環境との相互連関に関する研究と資料収集。

①共産党班——広州コミュニオン、江西ソビエト等。

②国民党班——中山盤事件、西安事変等の国際環境との相互連関に関する研究と資料収集。

【代表者】 榎 一雄

【分担者】 ①共産党班：鶴見尚弘，本庄比佐子，小野田サヨ子。

②国民党班：市古宙三，神田信夫，山根幸夫。

ii 一般調査研究

東亜考古学研究委員会

【資料の整理】 (1)梅原末治氏寄贈にかかる東亜考古学資料の整理と目録の作成：特に日本の部の目録の補充を行なった。

古代史研究委員会

【資料の整理】(1)東洋文庫所蔵の甲骨文資料の内、未発表・既発表の資料の類別の為、資料整理を行ない約3割程度を終了した。

唐代史（敦煌文献）研究委員会

【国内国外に現存する西域出土古文書の所在調査、マイクロ・フィルムによる収集、それらの整理研究】(1)パリ国立図書館所蔵ペリオ蒐集敦煌文献のうち、特に仏典・文学文献および社会経済関係文書など、わが国未収集のマイクロ・フィルムリストを作成した。(数十点のマイクロ・フィルムの収集並びにその焼付け写真の作成)。

(2)国外の諸機関、研究者に対する既収集敦煌文献資料の公開、情報提供を行なった。

宋代史研究委員会

【資料の整理・研究】(1)宋会要輯稿食貨之部および語彙索引の増補、並びに語彙の研究（前年度の継続）。

(2)宋代史年表索引カードの作成（前年度の継続）。

【情報活動】(1)宋代史研究文献速報62号を作成した。

明代史研究委員会

【講読・研究】(1)明代農民起義に関する文献の講読・研究（前年度の継続）。

近代中国研究委員会

【中国資料の収集・整理とその調査研究】(1)東洋文庫所蔵近代中国関係図書分類目録(中国文)・同日録の索引編集(刊行済)。(2)“解放日報”記事目録の索引編集。(3)中国共産党史資料の書誌学的研究。

近代日本研究委員会

【資料の収集・研究】(1)近代における欧米列強と東アジアないし、日本との国際関係、および近代日本と大陸諸民族との国際関係について、国際政治のみならず国際経済の資料をも収集し、これらの世界史的性格を総合的に研究する（前年度の継続）。

【文献目録の分類】(1)欧米における日本研究論著の目録の編集（前年度の継続）。

満州・蒙古（清代史）研究委員会

【校訂本・訳註の作成】(1)清太宗実録、順治本、康熙本、乾隆本の比較検討及び校訂本の作成（前年度の継続）。

(2)「旧満洲檔」の「満文老檔」未収部分の訳註原稿の作成（前年度の継続）。

朝鮮研究委員会

【資料の収集・研究・整理】(1)朝鮮法制書の調査収集、及びその講読、語彙索引の編集（前年度の継続）。

(2)李氏朝鮮の民政関係史料の収集、整理、研究。

中央アジア・イスラム研究委員会

【研究・整理】(1)中央アジア・トルコ諸民族史の研究（前年度の継続）。

(2)イスラム社会の構造の研究（同上）。

(3)トルコ・日本両国の近代化の比較研究（同上）。

(4)アルタイ学辞典の編集（同上）。

(5)「イスラム国家論」研究会の開催。

第1回 9月26日 清水宏祐: イスラム国家論—セルジューク朝の場合—

第2回 10月17日 小松久男: 青年ブハラ人運動について

第3回 11月21日 堀 直: 東トルキスタンにおけるイスラム国家論

第4回 12月19日 八尾師 誠: イラン立憲革命期におけるイスラム国家論

第5回 1月16日 堀川 徹: ティムール朝末期における権力抗争について

第6回 2月20日 北川 誠: イスラム国家とバグラット朝

第7回 3月19日 シンポジウム: (1)イスラム諸国家内の民族呼称の諸問題 (2)イスラム国家内の政治的党派潮流 (3)イスラム諸国家内の統治理念 (4)イスラム諸国家内の軍隊の生活・構造

南方史研究委員会

【東洋文庫所蔵インド・東南アジア文献分類目録の編集】(1)本年度は、ユネスコ 東アジア文化研究センターおよび近代中国研究室所蔵インド関係・東南アジア関係洋書の分類別・著者名別カードの作成。(完了)

(2)1976年3月迄の新規購入の未整理本の整理および分類別・著者名別カードの作成。(完了)

【整理・研究】(1)漢籍資料にみえるインド・東南アジアの古代史・中世史関連史料の整理研究。(各個別研究を進めた)

iii 特別調査研究

チベット研究委員会

チベット研究委員会は、昭和36年度にインドからチベット人研究協力者3名を招聘し、以来「チベット人との協同によるチベットの言語・歴史・宗教・社会の総合的研究」を実施して来た。昭和43年度からは、その新たな展開と充実を企図し、東洋文庫

に対する文部省補助金によるチベット特別調査研究を開始した。研究テーマ「チベットの歴史と文化の系統」は対象とする時代を年度別に下記のように設定し、チベットの文化、社会の諸相について、周辺諸地域の文化、社会と比較しつつ、その特質を究明しようとするものである。

昭和43～45年度：古代チベット（7世紀以前，7～10世紀）

昭和46・47年度：中世チベット（10～14世紀）

昭和48・49年度：近世チベット（15～17世紀）

昭和50・51年度：近代チベット（18～19世紀）

昭和52年度：現代チベット（20世紀）

昭和50年度近代チベット（18～19世紀）調査研究報告

〔歴史班〕榎 一雄，山口瑞鳳，金子良太

〔宗教班〕山口瑞鳳，川崎信定，立川武蔵

〔言語班〕北村 甫，星 実千代，長野泰彦，

〔チベット人研究協力者〕ソナム・ギャツォ，サムテン・ゲンツェン・カルメー，
ツルティム・ケサン

I 歴史班担当

1642年に成立したダライ・ラマ政権は、その後見者としての青海ホショット部を自由に繰るためと、呉三桂の乱以後露骨になった清朝の圧力を除くために、カルムクのガルダン汗と結び、両者の牽制を試みた。しかし、結果は失敗に終り、ガルダン汗とチベットの摂政サンゲギャツォは滅され、ホショットのハサン汗が政権の座についた。ついで、ハサン汗がオイラートに滅されると、清軍が進駐してカンチェンネによる傀儡政権をつくった。その後、市民戦争を経てボラネによる政権が生まれ、ダライ・ラマ7世は戦争の責任をとわれて、四川省 mGar dar に幽閉された。この間に、清朝はボラネに命じて完全な支配体制をつくりあげ、ダライ・ラマ7世をラッサに迎えた。この時以来18世紀後半に入るまで、ダライ・ラマの俗権力は、ほとんど取り上げられたままであった。

II 宗教班担当

ダライ・ラマ政権の成立と共に、ゲルクパ派（黄帽派）が正統仏教としての地位を政治的に確立する。その頃から清朝との往来が頻繁となり、青海方面の大ラマは多くその庇護を受け、ゲルクパ派を代表する学匠となった。彼等は内外の要請にこたえて、ゲルクパ派がインド以来の仏教学の体系中、中観帰謬論派の系統にあることを明らかにしていた。これらの主張の細格を、特にチャンキヤ、ジャムヤンの著作（二大「宗義大成」）を通じて明らかにした。

Ⅲ 言語班担当

「五体清文鑑」(18世紀末)の奉天故宮旧蔵本,北京故宮原蔵本,大英博物館所蔵本の異同を調査,同文献所載のチベット語を同時代の他のチベット語資料のチベット語と比較し,その異同を調査し,結果を各項目毎に1枚のカードに記載する作業を開始し,「天部1類7則」および「時令部」に就ての作業を終了,現在「地部」に就いての作業が進行中である。

Ⅳ 各班共同担当

(1) 歴史班,宗教班担当

東洋文庫所蔵,敦煌出土チベット文献目録(原稿)の一部を作成した。

(2) 歴史班,宗教班,言語班担当

チベット文献の収集整理:インドにおいてチベット人により複製出版されつつあるチベット語文献中,ポトン・チヨレ・ナムゲ全集の66巻~85巻,ボン教関係文献40点を購入・整理した。

Ⅴ 研究会

昭和48年度から東洋文庫チベット研究委員会主催のチベット月例研究会を東洋文庫においてひらき,研究活動および研究者の交流をはかっている。昭和50年度の研究報告は次の通りである。

第1回 4月19日 川崎信定:名句文身をめぐる Smṛtījñānakīrti の『言語の門』の解釈

第2回 5月17日 鳥羽季義:東ネパールのカリン・ライ族の村について

第3回 6月21日 星 実千代:ダナ伝承『ケサル物語』悪魔退治篇について

第4回 7月19日 長野泰彦:チベット宗教におけるシャーマニズム的要素

第5回 8月16日 佐藤道郎:チベット仏教における中観思想の位置

第6回 9月20日 岩崎 力:11世紀の河西チベット族の情勢

第7回 10月18日 北村 甫:ネパールでの言語調査から帰って

第8回 11月15日 松濤誠達:チベットに於ける祭祀的競合関係の一例

第9回 12月20日 山口瑞鳳:デブについて

第10回 1月24日 本庄比佐子:アメリカの祖南 洋氏

1月24日 金子良太:チベットの干闥語呼称

第11回 2月21日 岡田英弘:モンゴル帝国の構造とチベット

第12回 3月27日 星 実千代:チベットにおける日本人の祖先伝説について

(ただし第1,3,5,7,9,11の計6回のチベット月例研究会は,東洋文庫の研究会「談話会」と共催でおこなった)

iv 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は、5部門12研究委員会にわかれる。昭和51年3月31日現在、研究委員会の常任委員は以下のとおりである。

第1部 中国研究

東亜考古学：梅原末治，小山 勲，関野 雄，渡辺兼庸
古代史：越智重明，宇都木 章，河野六郎，後藤均平
唐代史（敦煌文献）：榎 一雄，菊池英夫，土肥義和，藤枝 晃，松本 明
宋代史：青山定雄，草野 靖，佐伯 富，周藤古之，竺沙雅章，中嶋 敏，渡辺紘良
明代史：田中正俊，鶴見尚弘，山根幸夫
近代中国：市古宙三，滋賀秀三，田中正俊，坂野正高，山根幸夫

第2部 近代日本研究

近代日本：岩生成一，田中時彦，鳥海 靖，
亀井 孝，酒井憲二

第3部 東北アジア研究

満州・蒙古（清代史）：榎 一雄，岡田英弘，神田信夫，松村 潤
朝鮮：田川孝三，河野六郎，末松保和，森岡 康，志部昭平

第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：榎 一雄，護 雅夫，後藤 明，永田雄三，花田宇秋，志茂
碩敏
チベット：榎 一雄，北村 甫，山口瑞鳳，金子良太，川崎信定，松濤誠達，長野
泰彦，S・G・カルメー

第5部 インド・東南アジア

南方史：荒 松雄，生田 滋，岩生成一，榎 一雄，辻 直四郎，中島正之，松本
信広，三根谷 徹，山崎元一，山本達郎

2. 学術図書出版

東洋文庫欧文紀要

Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko. No. 33. 1975 年刊
B 5 判 384頁

東洋文庫和文紀要

東洋学報 第57巻1・2号 昭和51年1月刊 A5判 296頁

東洋学報 第57巻3・4号 昭和51年3月刊 A5判 281頁

東洋文庫各種委員会刊行物

近代中国研究委員会

『東洋文庫所蔵近代中国関係図書分類目録(中国文)』 昭和50年8月刊 B5判 366頁

『東洋文庫所蔵近代中国関係図書分類目録索引(中国文)』 昭和51年3月刊 B5判 270頁

東洋文庫諸目録其他刊行物

『財団法人東洋文庫年報 昭和49年度』 昭和51年3月刊 A5判 45頁

『財団法人東洋文庫書報 第7号』 昭和51年3月刊 A5判 122頁

3. 講演会(財団法人東洋文庫設立50周年記念講演会)

春期 東洋学講座(第276回~280回)

榎 一雄「モリソン氏と小田切万寿之助氏と——財団法人東洋文庫設立五十周年記念にちなんで——」(5月13日)。

岩生成一「蘭医 Willen ten Rhyne と日本医学」(5月20日)

佐伯 富「茶と歴史」(5月27日)

滋賀秀三「清代の裁判に現われた家族法」(6月3日)

周藤吉之「宋と高麗との官僚制をめぐる諸問題—宋代東アジア史の一端として—」(6月10日)

秋期 東洋学講座(第281回~285回)

辻 直四郎「インドの婚礼と葬礼」(10月21日)

護 雅夫「遊牧国家とソグド人」(10月28日)

平岡武夫「白氏文集について」(11月4日)

小島憲之「原本系『玉篇』のひとつの方法」(11月11日)

榎 一雄「21世紀の東洋文庫——東洋文庫50周年記念講座を終るに当って——」(11月18日)

4. 研究会

川崎信定「名句文身をめぐる Smṛtijñā nakirti の『言語の門』の解釈」(4月19日)
サムテン・ゲルツェン・カルメー「A General Introduction to the History and Religion of Bon」(5月10日)

星 実千代「ダナ伝承『ケサル物語』悪魔退治篇について」(6月21日)

E.I. Kychanov「西夏の社会組織に関する新史料」(6月28日)

佐藤道郎「チベット仏教における中観思想の位置」(8月16日)

松村 潤「米国議会図書館所蔵の満洲語文献について」(10月11日)

北村 甫「ネパール調査報告」(10月18日)

山口瑞鳳「テブについて」(12月20日)

岡田英弘「モンゴル帝国の構造とチベット」(2月21日)

佐藤道郎「チベット仏教学における中観哲学——黄帽派を中心として——」(3月27日)

5. 研究者養成

チベット研究：長野泰彦【課題】ボン教の伝承に関する文献学的研究

中国研究：松本 明【課題】唐代選挙制度の研究

イスラム研究：花田宇秋【課題】イスラーム第二次内乱の研究

6. 国内・国外研究者への便宜供与

日本学術振興会流動研究員・奨励研究員

流動研究員

佐藤道郎(広島大学助教授)〔課題〕「チベット仏教研究——特に諸宗派の教学を中心にして——」

奨励研究員

志茂碩敏〔課題〕「Ghazan Khan の諸改革」

志部昭平〔課題〕「朝鮮語の歴史的研究」(昭和50年7月、東京教育大学文学部助手に就任の為、辞退)

便宜供与した外国人研究者

Dr. Annemarie Von Gavain (西ドイツハンプルク大学教授)

Prof. Dr. Evgenij I. Kychanov (ソビエト連邦国立科学アカデミー東洋学研究所
レニングラード支所副所長)

7. 職員の研究業績

略号：①…著書 ②…編書 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介 ⑥…翻訳
⑦…講演・研究発表 ⑧…その他(評論・雑記・座談会等)

青山定雄

③「北宋を中心とする士大夫の起家と生活倫理」(東洋学報 57—1・2, 35~63頁,
東洋文庫, 1976年1月)。

荒松雄

③「ムガル宮廷の女性像」(田中於菟弥編『インド女性史』, 評論社, 1976年3月),
「デリーに現存するスーフィー聖者の偽廟と偽墓」(東洋文化研究所紀要69, 1976年
3月), ⑧「思想の言葉, 文献史料と歴史家」(思想98~99頁, 岩波書店, 1976年2
月)。

生田 滋

③「東アジアの船」(大林太良編『日本古代文化の探究・船』, 181~217頁, 社界思
想社, 1975年4月), 「イエレミアス・ファン・フリート著『アユタヤ王国史』に見
える王統関係記事」(『榎博士還暦記念東洋史論叢』, 15~30頁, 山川出版社, 1975
年11月)。

市古宙三

③「怎樣分析階級について」(『鈴木俊先生古稀記念東洋史論叢』, 55~71頁, 山川
出版社, 1975年4月刊), ③「抗日救国宣言について」(国学院雑誌77—3, 122~
129頁, 国学院大学, 1976年3月)。

岩生成一

③“Japanese Foreign Trade in the 16th and 17th Centuries”(Acta Asiatica,
No. 30, 1~18頁, 東方学会, 1976年2月), 「朱印船貿易の発展はどうであったか」
「なぜ東南アジアに日本町ができたか」(『海外交渉史の視点』2, 100~103頁,
108~111頁, 日本書籍株式会社, 1976年1月), 「ジャカルタの『新建養濟院列福
戸捐金姓氏』の碑」(南方文化2, 13~25頁, 天理南文化研究会, 1975年9月), ⑦
「オランダ東インド総督府総務長官 Carel Hartsinck」(日本学士院例会, 1975年
4月), 「蘭医ウィルレム・テン・ライネ Willem ten Rhijna と日本医学」(東洋

文庫昭和50年度東洋学講座，1975年5月20日，要旨：東洋文庫書報7，102～104頁，1976年3月）。

宇都木 章

③「魯の三桓氏の成立について」（『中国古代史研究』4，217～246頁，雄山閣，1976年3月）。

榎 一雄

③ “Hsieh, Viceroy of the Yüeh-chih, A contribution to the chronology of the Kushans” (Центральная Азия в Кушанскую Эпоху, Том I, Москва: Издательство «Наука», 1974, стр. 265—274.), 「再び邪馬台国の方位について」(歴史公論2, 62～72, 149～150頁, 雄山閣, 1965年2月), 「専制君主の学芸奨励——唐の太宗・高宗と玄奘の場合——」(アジアクォーターリー, 7—2, 79～82頁, アジア調査会, 1975年4月), 「原始・大和時代の対外交渉」「邪馬台国と魏との交渉はどうであったか」「ことばの問題」(『海外交渉史の視点』1, 19～23頁, 38～42頁, 43頁, 日本書籍株式会社, 1975年10月), 「ユールの『東西交渉史』について」(ヘンリー・ユール, アンリ・コルディエ『東西交渉史』——支那及び支那への道——, 13頁, 原書房, 1975年6月), ⑤「白鳥博士自筆原稿四種——東洋文庫所蔵の特殊本——(その一)」(東洋文庫書報6, 1～16頁, 東洋文庫, 1975年3月), 「加藤繁博士の講義案——東洋文庫所蔵の特殊本(その二)——」(東洋文庫書報7, 13～36頁, 東洋文庫, 1976年3月), 「中山久一郎博士の学績, 附著作目録並びに東洋文庫受贈の遺稿書抜類及び図書」(東洋文庫書報6, 44～98頁, 東洋文庫, 1975年3月), ⑦「モリソン氏と小田切萬寿之助氏と——財団法人東洋文庫設立五十周年記念に因んで——」(東洋文庫東洋学講座, 1975年5月13日, 要旨：東洋文庫書報7, 95～102頁, 1976年3月), 「二十一世紀の東洋文庫——東洋文庫五十周年記念講座を終るに当たって——」(東洋文庫東洋学講座, 1975年11月18日, 要旨：東洋文庫書報7, 1～12頁, 1976年3月), 「支那学研究的資料の所在について」(昭和49年足利学校積算記念講演筆記, 1～26頁, 足利学校遺蹟図書館, 1975年11月), ⑧「人類の順応性」(アジア時報1975—3, 80頁, アジア調査会, 1975年3月), 「イスラム文明史論の試み」(中東通信227, 1～2頁, 中東調査会, 1975年4月), 「始皇帝の政治的復活——儒法闘争の再燃に関連して——」(東京新聞夕刊, 4頁, 1975年7月9日), 「世界のアジア研究における東洋文庫の位置」(国立国会図書館月報, No. 167, 2～10頁; No. 169, 2～11頁, 国立国会図書館, 1975年2月, 4月), 「期待するもの」(晩晴14, 13～14頁, 蘇峰先生彰徳会, 1975年3月), 「アジア研究所紀要創刊号を読んで」(亜細亜大学アジア研究所所報1, 10頁, 亜細亜大学, 1975年6月30日), 「田中卓著『海に書かれた邪馬台国』推薦文」(青春出版社, 1975年9月), 「ロンドンの思い出, (1), (2), (3), 」(山紫水明69, 16～19頁; 70, 22～25頁; 71, 18～21頁, 山

紫会・水明会, 1975年7月, 9月, 11月), 「定年を迎えて」(帰れ自然へ! —ア
ルタ—118, 12~13頁, 日本万歩クラブ, 1975年5月), 「榎一雄博士略年譜・著
作略目」(『榎博士還暦記念東洋史論叢』, 2~46頁, 山川出版社, 1975年11月), 「未
だ覚めず池塘春草の夢」(歴史と地理242, 11~24頁, 山川出版社, 1975年11月)。

岡田英弘

③「ダヤン・ハーンの六万戸の起源」(『榎博士還暦記念東洋史論叢』, 127~137頁,
山川出版社, 1975年11月), 「現代史としての日本古代史1, 東南アジアに日本の古
代を見た」(諸君! 8-1, 文芸春秋社, 1975年12月), 「現代史としての日本古代史
2, 魏志倭人伝と古代中国の文化大革命」(諸君! 8-2, 文芸春秋社, 1976年1
月), 「現代史としての日本古代史3, 女の執念が生んだ日本書紀」(諸君! 8-3,
文芸春秋社, 1976年2月), 「現代史としての日本古代史4, 初代の倭国大王仁徳天
皇」(諸君! 8-4, 文芸春秋社, 1976年3月), 「周恩来死後の中国」(自由世界13
-2, 自由アジア社, 1976年3月), ⑧「モンゴル〔帝国〕, モンゴル」(週刊アル
ファ大世界百科242, 日本メール・オーダー社, 1975年4月), 「ヤクート〔族〕,
ヤサ」(週刊アルファ大世界百科243, 日本メール・オーダー社, 1975年5月), 「耶
律阿保機, 耶律楚材, 耶律大石」(週刊アルファ大世界百科245, 日本メール・オー
ダー社, 1975年5月), 「世界の大学11, シンガポール大学」(写真と説明, 諸君!
7-11, 文芸春秋社, 1975年10月), 「おんなの勇氣」(随筆「自画像」, 現代10-3,
講談社, 1976年3月)。

越智重明

③「家と家人」(九州大学東洋史論集4, 58~87頁, 九州大学文学部東洋史研究会,
1975年10月), 「轅田をめぐる」(『榎博士還暦記念東洋史論叢』, 155~166頁, 山
川出版社, 1975年11月), 「前漢時代の徭役について」(法制史研究25, 1~48頁,
1976年3月), 「藉と賦」(史淵113, 63~92頁, 九州大学文学部, 1976年3月), 「社
と田」(東洋学報57-3・4, 41~80頁, 東洋文庫, 1976年3月), ⑦「家人につい
て」(九州史学会, 1975年12月)。

川崎信定

③「密教における愛」(仏教思想研究会編『仏教思想I・愛』, 155~182頁, 平楽寺
書店, 1975年6月), 「法を知る人は存在するか——Tattvasamgraha における仏教
・ミーマンサー学派の論争」(『平川彰博士還暦記念論集・仏教における法の研究』,
267~289頁, 春秋社, 1975年10月), “The Concept of the Subtle Body (Līngā-
śarīra) in Brahmanism” (筑波大学哲学・思想学系論集, 昭和50年度, 1~14頁,
1976年3月), “Analysis of Yoga in the *Samdhinirmocana-sūtra*” (豊山学報20,
200~214頁, 1976年3月), “Warren Hastings and Trans-Himalayan Trade—
significance of Bogle’s Mission to Tibet, 1774~75” (The Journal of Intercul-

tural Studies, No. 2, Intercultural Research Institute, Kansai University of Foreign Studies, "A Reference to Maga in the Tibetan Translation of the Tarkajvala" (印度学仏教学研究23—2, 1~7頁, 1975年3月), 「貪欲にもとづくタントラ分類」(宗教研究49—3, 94~95頁, 1975年3月), 「研究ノート・チベットの死者の書——死の瞬間を起点としてみた生——」(倫理思想研究1, 97~98頁, 筑波大学倫理思想研究会, 1976年3月), ⑤ "Alex Wayman: The Buddhist Tantras; Light on Indo-Tibetan Esoterism, 1973" (印度学仏教学研究23—2, 956~959頁, 1975年3月)。

神田信夫

⑥「李光濤・李学智編著『明清檔案存真選輯二集』」(東洋学報57—1・2, 207~212頁, 東洋文庫, 1976年1月), ⑦「史部について」(東大東洋学文献センター漢籍講習会, 1975年11月)。

菊池英夫

③「唐賦役令庸調物条に関する一試論」(『鈴木俊先生古稀記念東洋史論叢』, 129~146頁, 山川出版社, 1975年4月), ⑤「古賀登『県郷亭里制度の原理と由来』史林56—2」, 「船越泰次『唐代兩税法における斛斗の徴科と兩税錢の折糶・折納問題——兩税法の課税体系に関連して』東洋史研究31—4」(法制史研究25, 252~254頁, 法制史学会, 1975年度年報, 1976年3月), ⑦「唐賦役令庸調条再考」(北大東洋史談話会, 1975年11月22日)。

北村 甫

③ "The Honorifics in Tibetan" (*Acta Asiatica*, No. 29, 56~74頁, 東方学会, 1975年11月), ⑤「ネパール調査報告」(東京外国語大学A. A. 研通信, No. 26, 33頁, 1976年3月), ⑦「ネパールでの言語調査から帰って」(第23回日本西蔵学会, 1975年10月)。

草野 靖

③「旧中国の田面慣行——田面の転頂と佃戸の耕作権——」(東洋史研究34—2, 50~76頁, 東洋史研究会, 1975年9月)。

河野六郎

③「『日本呉音』に就いて」(言語学論叢最終巻(15), 3~16頁, 東京教育大学言語学研究会, 1976年3月)。

後藤 明

③「イスラム教の成立」(アジア文化12—1, 90~101頁, 東洋哲学研究所, 1975年6月), ⑤「嶋田襄平著『マホメット——預言者の国づくり——』」(史学雑誌84—8, 90~91頁, 史学会, 1975年8月), ⑦「トルコのカラギョズ影絵芝居」(オリエ

ント学会月例講演会, 1975年10月18日), 「マホメットと12人の妻達」(アジア文化研究会月例会, 1976年2月27日)。

後藤均平

①『ベトナム救国抗争史』(309頁, 新人物往来社, 1975年12月), ③「仏国孤拔艦隊」(軍事史学11—3, 20~30頁, 1975年12月)。

小山 勲

③『研究ノート・松戸の遺跡——松戸市埋蔵文化財分布調査報告書——』(松戸市文化財調査報告6, 6~44頁, 1976年3月), ⑧「史料館蔵の弥生式土器」(かみしき14, 2頁, 1975年10月), 「松戸市北部のフィールド調査概報」(かみしき15, 2頁, 1976年2月), 「下総史料館」(千葉県歴史11, 65~67頁, 1976年2月)。

佐伯 富

②『福恵全書語彙解』(同朋舎, 68頁, 1975年9月), 『雅俗漢語訳解』(同朋舎, 195頁, 1976年2月), ③「茶と歴史」(史原6, 1~15頁, 国立台湾大学歴史科学研究所, 1975年10月), 『『雍正硃批論旨』の原文書について』(東洋学報57—1・2, 102~124頁, 東洋文庫, 1976年3月), ⑦「茶と歴史」(東洋文庫東洋学講座, 1975年5月27日, 要旨: 東洋文庫書報7, 104~106頁, 1976年3月)。

酒井憲二

①『うたゝね——本文および索引——』(次田香澄と共著, 笠間書院, 274頁, 1976年2月), ②『歌舞伎評判記集成』第8巻, 第9巻(翻刻協力, 岩波書店, 616頁, 1975年8月, 634頁, 1976年1月), ③「伴信友の鈴鹿本今昔物語集研究に導かれて」(国語国文44—10, 23~30頁, 京都大学, 1975年10月), 「伴信友の今昔物語集研究」(山梨県立女子短期大学紀要9, 16頁, 1976年3月), ⑧「辞書を語る」(見坊豪紀ほか4名と座談, 国語教育182, 2~15頁, 光村図書出版, 1975年4月)。

佐藤道郎

③「Prāsaṅgika の軌跡」(日本西藏学会会報22, 1~3頁, 日本西藏学会, 1976年3月), ⑦「チベット仏教における中観思想の位置」(チベット月例研究会, 1975年8月16日), 「チベット仏教における中観哲学——黃帽派を中心として——」(東洋文庫談話会, 1976年3月27日)。

滋賀秀三

③「中国上代の刑罰についての一考察——誓と盟を手がかりとして」(『石井良助先生遷曆祝賀法制史論集』, 5~36頁, 創文社, 1976年3月), “Criminal Procedure in the Ch'ing Dynasty: With Emphasis on its Administrative Character and Some Allusion to its Historical Antecedents (II)” (Memoirs of the Research Department of The Toyo Bunko, No. 33, 115~138頁, 東洋文庫, 1976年3月), ⑤「西田

太一郎『中国刑法史研究』・中村茂夫『清代刑法研究』(社会経済史学41—2, 95～100頁, 1975年7月), ⑦「清代の裁判にあらわれた家族法」(東洋文庫東洋学講座, 1975年6月3日, 要旨: 東洋文庫書報7, 107～110頁, 1976年3月)。

末松保和

②『前問恭作遺稿, 訓読史文』(再版, 378頁, 国書刊行会, 1976年10月), ⑤「今西龍著『高麗及李朝史研究』」(朝鮮学報78, 219～222頁, 朝鮮学会, 1976年1月),

周藤吉之

③「高麗朝における三司とその地位」(朝鮮学報77, 39～89頁, 朝鮮学会, 1975年10月), 「高麗初期の地方制度」(東洋大学大学院紀要12, 321～367頁, 1976年3月), 「保甲法における上下の分と逃亡の法」(『榎博士還暦記念東洋史論叢』, 249～260頁, 山川出版社, 1975年11月), ⑦「宋と高麗の官僚制をめぐる諸問題」(東洋文庫東洋学講座, 1975年6月10日, 要旨: 東洋文庫書報7, 110～112頁, 1976年3月)。

関野 雄

②『故宮博物院』(小山富士夫・杉村勇造・宮川寅雄共編, 講談社, 図版426頁, 解説80頁, 1975年4月), ⑤「N. バーナード・佐藤保『中国古代金属遺物』」(新刊紹介(推薦文), 日応社, 1975年12月), ⑦「中国考古学界の現状」(東北中国学会大会, 1975年5月31日), ⑧「殷代の遺跡を訪ねて」(宮川寅雄編『新中国考古の旅』39～72頁, 秋田書店, 1975年7月)。

田川孝三

③「郷憲と憲目」(『鈴木俊先生古稀記念東洋史論叢』, 269～293頁, 山川出版社, 1975年4月), 「貢人関係文書について」(『榎博士還暦記念東洋史論叢』, 275～310頁, 山川出版社, 1975年11月), 「葉徳輝と雙梅閣叢書」(東洋性医学古典集成, 解説篇, 7～17頁. 財団法人古医学資料センター刊. 1975年7月), 「郷規について」1, (朝鮮学報76, 35～72頁, 朝鮮学会, 1975年7月)。

田中時彦

③「政党政治挫折の環境(3)——血盟団, 五・一五事件を中心とする直接行動主義の位置づけ——」(東海大学紀要, 政治経済学部7, 25～53頁, 東海大学出版会, 1976年2月), 「オールコック——動乱の幕末に活躍した初代イギリス公使」(岡田章雄編『人物探訪日本の歴史, 17, 異郷の人々』, 152～157頁, 暁教育図書出版, 1975年12月), 「サトウ——日本びいきのイギリス人外交官」(岡田章雄編『人物探訪日本の歴史, 17, 異郷の人々』, 158～161頁, 暁教育図書出版, 1975年12月)。

竺沙雅章

①『宋の太祖と太宗——変革期の帝王たち——』(「人と歴史シリーズ」東洋6, 199頁, 清水書院, 1975年10月), ③「中国古文書学の現段階」(『書の日本史』, 9,

129～137頁，平凡社，1976年3月），⑥『中国墓誌精華』（分担執筆，中央公論社，1975年12月），⑧「敦煌文書の世界」（高槻市高齢者大学講座，1975年11月）。

辻 直四郎

①『サンスクリット読本』（IX+312頁，春秋社，1975年6月），③「インド文法学概観」（鈴木学術財団年報11（1974），1～28頁，1975年），⑤「ゲルハルト・オーベルハンメル編著『啓示・人間の精神的現実』」（東洋学報56—2・3・4，401～406頁，東洋学術協会，1975年3月），「ジョージ・チェンパラーティ著『インドの合理的神学，ウダヤナの『論理の花束』序説』（東洋学報56—2・3・4，398～401頁，東洋学術協会，1975年3月），⑦「インドの婚礼と葬礼」（東洋文庫東洋学講座，1975年10月21日，要旨：東洋文庫書報7，113～114頁，1976年3月）。

鳥海 靖

②『上原勇作関係文書』（伊藤隆ほかと共編，686頁，東京大学出版会，1976年3月），③「東と西の狭間で」（井上光貞・芳賀徹・林屋辰三郎編『講座比較文化』，1，『日本列島の文化史』，255～288頁，研究社，1976年3月），⑤「若槻礼次郎著『古風庵回顧録』（経済往来27—10，202～204頁，経済往来社，1975年10月），「大久保利謙ほか編『資料御雇外国人』（史学雑誌84—10，97～98頁，史学会，1975年10月），⑦「日本近代化の歴史的考察」（エグゼクティブゼミナール，1975年10月20日，講演・質疑要旨：エグゼクティブゼミナール38，3～34頁，日本マネジメントスクール，1976年2月），⑧「私の研究・歴史学と人物」（サンケイ新聞，1975年11月10日夕刊），「近代化とテロリズム」（『歴史と人物』55，36～47頁，中央公論社，1976年3月），「オーストラリアで感じたこと」（日本文化会議月報47，2頁，日本文化会議，1976年3月）。

土肥義和

③「貞観十四年九月西州安苦啣延手実について——その特徴と歴史的背景——」（『鈴木俊先生古稀記念東洋史論叢』，295～314頁，山川出版社，1975年4月），「唐代敦煌の居住園宅について——その遷受と田土の地割とに關連して——」（国学院雑誌77—3，石田幹之助博士追悼号，162～177頁，国学院大学，1976年3月）。

中嶋 敏

③「北宋徽宗朝の夾錫錢について」（東洋研究 No. 40，113～130頁，大東文化大学東洋研究所，1975年4月）。

永田雄三

③“Some Documents on the Big Farms of the Notables in Western Anatolia”（Studia Culturae Islamicae, No. 4, 68頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1976年）。

長野泰彦

- ④「シャーマニズム学説小史補遺」(東洋学報56—2・3・4, 15~31頁, 東洋学術協会, 1976年3月), ⑤「東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所編『アジア・アフリカ文法研究, 特集: 述語』」(東洋学報57—3・4, 250~254頁, 東洋文庫, 1976年3月), ⑦「チベットの宗教とシャーマニズム」(チベット月例研究会, 1975年7月19日), ⑧「日本西藏学会」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 通信, No. 26, 24~25頁, 1976年3月)。

花田宇秋

- ③「第一次内乱とシリア——序説——」(『鈴木俊先生古稀記念東洋史論叢』, 331~347頁, 山川出版社, 1975年4月), 『アップース朝の王』『アブドゥル・ラフマーン一世』(磯見辰典編『男の世界史』, 148~158頁, 159~169頁, K. K. ロングセラーズ, 1975年2月), ⑤「森本公誠著『初期イスラム時代エジプト税制史の研究』」(史学雑誌84—9, 59~64頁, 史学会, 1975年9月), ⑦「ムフタールの反乱とアラブ帝国」(日本オリエント学会月例会, 1975年5月)。

坂野正高

- ⑥「マカートニー著『中国訪問使節日記』」(『東洋文庫277』, xiii+350+8頁, 平凡社, 1975年9月), ⑦“Etudes japonaises relatives à l'histoire diplomatique de la Chine moderne: une réévaluation.”(パリのEcole des Hautes Etudes en Sciences SocialesのSéminaire d'Histoire de la révolution chinoise [Lucien Bianco 教授主宰]における講演, 1976年3月18日)。⑧「姉崎先生の——喝——『縁なき無生』の想い出」(陸3—9, 4~6頁, 陸俳句会発行, 1975年9月), 「『男子の本懐』としての政治学——南原先生の想い出」(『緑会雑誌』, 復刊9, 27~30頁, 東京大学法学部緑会委員会, 1976年1月)。

藤枝 晃

- ①『聖徳太子集』(家永三郎・早島鏡正・築島裕共著, 日本思想大系, 2, 岩波書店, 1975年4月), ③“Bemerkungen zu Fragment Ch 422 und damit zusammenhängenden Fragmenten”(Thomas Thilo 共著, Anhang zu *Katalog chinesischer buddhistischer Textfragmente* Band 1, Akademie der Wissenschaften der DDR, Zentralinstitut für Alte Geschichte und Archäologie, Berliner Turfantexte VI, Berlin: Akademie-Verlag 1975, pp.205~209), 「木簡あれこれ」(言語生活292, 33~38頁, 筑摩書房, 1976年1月), ④「第十四回国際歴史学会議に出席して」(史林59—2, 283~289頁, 京都史学研究会, 1976年3月), ⑦「三経義疏についての私見」(講演概要: 人文13, 6~7頁, 京大人文科学研究so, 1975年9月), 「敦煌学の現段階」(京大人文科学研究so退官記念講演, 概要: 人文13, 12~13頁, 全文速記, 図書309, 2~17頁, 岩波書店, 1975年5月), 「敦煌の浄土教」(龍谷大学宗

学部, 1975年10月2日), ⑧「関雪画伯の印癖」(『銭瘦鉄遺芳展目録』, 2~3頁, 京都白沙村荘, 1975年4月), 「中国古印と加藤さん」(有隣館蔵『璽印精華』, 30~31頁, 藤井斉成会, 1975年5月), 「印章のはなし」(月刊出光279, 10~15頁, 出光興産株式会社, 1976年3月), 「表紙写真, 並びに解説」(言語生活292~294, 筑摩書房, 1976年1, 2, 3月)。

本庄比左子

②『王明選集, 第5巻』(349頁, 汲古書院, 1975年11月), ③「東支鉄道紛争と中国共産党」(東洋学報56—2・3・4, 1~37頁, 東洋学術協会, 1975年3月), 「陳紹禹(王明)略伝」(『王明選集, 第5巻』, 331~343頁, 1975年11月)。

松濤誠達

③「古代インド神話解釈の試み——古代インドのトリックスター論覚え書き」(印度学仏教学研究24—2, 39~43頁, 日本印度学仏教学会, 1976年3月)。

松村 潤

③「清太祖武皇帝実録の編纂について」(『榎博士還暦記念東洋史論叢』423~444頁, 山川出版社, 1975年11月), ③「満洲語訳の聖書について」(東洋文庫書報7, 25~32頁, 東洋文庫, 1976年3月), ④「米国議会図書館所蔵満洲語文献目録」(東洋学報57—1・2, 36~60頁, 東洋文庫, 1976年1月), 「第十八回国際アルタイ学会会議」(東洋学報57—3・4, 260~265頁, 東洋文庫, 1976年3月), ⑦「米国議会図書館所蔵の満洲語文献について」(東洋文庫談話会, 1975年10月11日), 「欧米現存の満洲語文献について」(日本大学史学会秋季講演会, 1975年12月6日)。

松本 明

③「唐の選挙制に関する諸問題」(『鈴木俊先生古稀記念東洋史論叢』, 391~414頁, 山川出版社, 1975年4月)。

松本信広

③「南海の釣針喪失譚」(どるめん7, 110~123頁, ジック出版局, 1975年10月), 「古代船舶伝承考」(どるめん8, 14~30頁, 77頁, ジック出版局, 1976年1月), 「鳥夷の国」(どるめん9, 78~93頁, ジック出版局, 1976年4月), ⑧「古代の船と海の文化」(『古代文化の探求』, 大林太良との対談, 「船」, 243~269頁, 社会思想社, 1975年4月)。

三根谷 徹

③「唐代の標準語音について」(東洋学報57—1・2, 01~016頁, 東洋文庫, 1976年1月)。

護雅 夫

③「スーヅ碑文の一解釈——とくに最初の三行について——」(『榎博士還暦記念東

洋史論叢』445～463頁，山川出版社，1975年11月），「北アジアから見た騎馬民族説——とくに立石・石人・『パルバル』について——」（『歴史と人物』，63～73頁，中央公論社，1975年11月），「いわゆるチュルギシュの銅銭の銘文について」（『三笠宮殿下還暦記念オリエント学論集』，322～329頁，講談社，1975年12月），「突厥碑文劄記——突厥第二可汗国における『ナシヨナリズム』——」（『東洋史研究』34—3，1～31頁，東洋史研究会，1976年3月），④「騎馬民族説の問題点」（『海外交渉史の視点』1，58～63頁，日本書籍株式会社，1975年10月），⑤「江上波夫編『騎馬民族とは何か』」（『週刊読書人』，1975年9月），「エス・ゲー・クリシュトルヌイ著『東コピのルーン文字銘文』」（『東洋学報』57—1・2，217～222頁，東洋文庫，1976年1月），⑥「ラージ・テミゼル『アナトリアの美術——先史・ハッティ・フリュギア——』（トルコ語）（『古代西アジアの美術』，288～298頁，学習研究社，1975年4月），⑦「遊牧国家とソグド人」（『東洋文庫秋期東洋学講座』，1975年10月28日，要旨：『東洋文庫書報』7，114～118頁，1976年3月），「東西文化交流史上におけるソグド人」（『内陸アジア史学会』，1975年11月4日），「チムール帝国」（NHK，1975年12月15日），⑧「ラージ・テミゼル先生のことども」（『古代西アジアの美術』月報，学習研究社，1975年4月），「幻の名馬を求めて」（『文芸春秋デラックス』，85～89頁，1975年8月），「学びの出発——ディオネゾスのさけび——」（『中央公論』，46～47頁，1975年11月），「サマルカンド幻想——チムールの美妃——」（『月刊シルクロード』，75～78頁，株式会社シルクロード，1975年11月），「細君」（『月刊シルクロード』，35～39頁，株式会社シルクロード，1976年1月），「騎馬民族——その起源と文化——」（『別冊週刊読売』，89～94頁，1976年2月）。

山口瑞鳳

③「Riñ lugs rBa aPal byañs——bSam yas 宗論をめぐる一問題——」（『平川彰博士還暦記念論集，仏教における法の研究』，641～664頁，春秋社，1975年10月），“The Geographical location of Sum yul”（『Acta Asiatica』，No. 29，20～42頁，東方学会，1975年11月），『三十頌』，『性入法』の成立時期をめぐる——Thon mi sambhoṭa の生存年代——」（『東洋学報』57—1・2，1～34頁，東洋文庫，1976年1月），「敦煌チベット文語の解釈について——lde bu と lte bu の混同——」（『東京大学文学部文化交流研究施設研究紀要』1，31～41頁，東京大学，1975年），④“Tibetan studies”（『Oriental studies in Japan: retrospect and prospect』，1963～1972，part II—17，pp. 1～17，The Centre for East Asian Cultural Studies，Tokyo，1975），「回顧と展望，チベット」（『史学雑誌』85—5，249～251頁，史学会，1975年5月）。

山崎元一

③「カースト制度とその成立」（『アジア文化』12—2，58～70頁，東洋哲学研究所，1975年9月），「ウバグプタ伝説考——ブシルスキイ説の紹介を中心に——」（『榎博士還暦記念東洋史論叢』465～480頁，山川出版社，1975年11月），「アショカ王の

登位」(国学院雑誌77—3, 191~201頁, 国学院大学, 1976年3月), ⑤「R. S. シャルマ編『インド社会——歴史的探究——』(D. D. ユーサンビー追悼論文集)」(東洋学報56—2・3・4, 268~274頁, 東洋学術協会, 1975年3月), 「ジャイマル・ラーイ著『古代インドにおける農村・都市経済と社会変化』」(東洋学報57—1・2, 222~228頁, 東洋文庫, 1976年1月), ⑧「カースト制度の転」(サルボダヤ15—6, 16~19頁, 日印サルボダヤ交友会, 1975年6月)。

山本達郎

①『ベトナム中国関係史——曲氏の擡頭から清仏戦争まで——』(鈴木中正, 竹田龍児ほかと共著, xiii+727+50頁, 別添付図, i~iv, 83~251, 601, 610~615, 625~643, 661~672, 699, 706~722頁, 山川出版社, 1975年12月), ③「歴史上からみた東アジアの国際関係の形態」(アジア文化研究8, 1~12頁, 国際基督教大学アジア文化研究所, 1976年9月), 「榜葛刺と沼納樸児と底里」(『檀博士還暦記念東洋史論叢』, 481~497頁, 山川出版社, 1975年11月), 「東洋と日本」(三枝充恵, 今井淳共編『東洋文化と日本』, 10~38頁, ペリカン社, 1975年11月), ⑤“『*Le Bayon*』: *Histoire architecturale du temples, par Jacques Dumarçay—Inscriptions du Bayon, par Bennard Philippe Groslier—*”(東南アジア——歴史と文化——, No. 5, 147~150頁, 東南アジア史学会, 1975年12月), ⑦「地域研究の必要」(国際親善の会記念講演, 国立教育会館, 1975年12月20日), 「故・原田淑人会員追悼の辞」(日本学士院, 1975年3月12日例会), ⑧シンポジウム「シュリー・ヴィヂャヤ問題」(東南アジア史学会大会, 1975年11月2日)における論評(要旨: 室利仏逝と三斉仏という名称について), シンポジウム「古代の君主権」(史学会73回大会, 1975年11月9日)における論評(要旨: 東南アジアにおける君主権の源泉及び王朝の交代について(史学雑誌84—12, 76頁)), 「東南アジア史学会の例会」(学会消息, 東南アジア——歴史と文化——No. 5, 170頁), 「国連人権宣言語彙の比較研究」(アジア・アフリカ言語文化研究所, 通信25, 5~6頁, 1975年11月), 「饒宗頤, 蒲甘国史零捨」(和文要約, 東南アジア——歴史と文化——No. 5, 13頁)。

山根幸夫

①『近代中国と日本』(383頁, 山川出版社, 1976年2月) ②『中国土地契約文書集(金へ清)』(共編, 212頁, 東洋文庫, 1976年3月), ④「韓国における明代史研究論文要目(1945~1974)」(明代史研究3, 42~45頁, 明代史研究会, 1975年12月), ⑤「黄彰健編『康有為戊戌変法真奏議』」(東洋学報56—2・3・4, 250~253頁, 東洋学術協会, 1975年3月), 「檜木野 宣著『清代重要職官の研究』」(東洋学報57—1・2, 212~217頁, 東洋文庫, 1976年1月), 「中華民國史料研究中心編『研究中山先生的史料与史学』」(東洋学報57—3・4, 247~250頁, 東洋文庫, 1976年3月), 「川勝守『浙江嘉興府の楸田問題——明末の郷紳支配成立に関する一考察——』」(法制史研究25, 257~258頁, 法制史学会, 1976年3月), 「広池千九郎訓点・内田智

雄補訂『大唐六典』(モラロジー研究4, 188~192頁, 東京女子大学, 1976年3月),
⑧「新井浩先生のこと(退職教授略歴)」(東京女子大学紀要論集26-1, 161~162
頁, 東京女子大学, 1975年9月), 「発智正三郎君の思い出」(『発智正三郎——論文
と思い出』, 187~189頁, 大学教育社, 1975年10月), 「<家風に合わない> 教員の
たたかい」(歴史評論303, 38~40頁, 歴史科学協議会, 1975年7月)。

渡辺紘良

⑤「青山博士古稀記念宋代史論叢刊行会編『青山博士古稀記念宋代史論叢』(史学
雑誌85-1, 84~89頁, 史学会, 1976年1月)。

IV 業務報告

1. 庶務報告

A. 財団法人東洋文庫理事会・評議員会

理事会

- 第 211 回 開催日 昭和50年 5月27日 (火)
出席者 辻 直四郎, 榎 一雄, 小笠原光雄, 河野六郎, 酒井杏之助,
高垣寅次郎, 山本達郎
委任状 有光次郎, 川北禎一, 徳川宗敬, 松本重治, 岡東 浩
- 第 212 回 開催日 昭和50年10月15日 (火)
臨時持廻り
- 第 213 回 開催日 昭和50年11月25日 (火)
出席者 辻 直四郎, 榎 一雄, 河野六郎 酒井杏之助, 高垣寅次郎,
松本重治, 山本達郎
委任状 有光次郎, 小笠原光雄, 川北禎一, 徳川宗敬

評議員会

- 第 94 回 開催日 昭和50年 5月27日 (火)
出席者 辻 直四郎
委任状 梅原末治, 岡本道雄, 久野 洋, 中山素平, 長谷川周重,
林 健太郎, 俣野健輔, 村井資長

B. 東洋学連絡委員会

- 前期 開催日 昭和50年 5月20日 (火)
議 題 1. 昭和49年度財団法人東洋文庫事業報告について

2. 昭和50年度財団法人東洋文庫事業計画案について
- 後期 開催日 昭和50年10月28日(火)
- 議 題 1. 昭和50年度財団法人東京文庫事業中間報告について
2. 昭和51年度財団法人東洋文庫事業計画案について

C. 東洋文庫維持会

本維持会は、財団法人東洋文庫の事業を援助発展させることを目的として結成されたもので、現在の会員は下記の通り47社である。会員には普通会員(個人)、賛助会員(個人又は法人団体)、及び特別会員があり、特別会員を除き年会費(普通会員1口5千円以上、賛助会員1口50千円以上)を納入する。

東洋文庫維持会会員名簿

三菱重工業株式会社	三菱化工機株式会社
株式会社三菱銀行	三菱瓦斯化学株式会社
旭硝子株式会社	三菱自動車工業株式会社
三菱化成工業株式会社	三菱自動車販売株式会社
三菱金属株式会社	三菱樹脂株式会社
三菱鋁業セメント株式会社	三菱製鋼株式会社
三菱地所株式会社	三菱製紙株式会社
三菱商事株式会社	三菱モンサント化成株式会社
三菱石油株式会社	三菱油化株式会社
三菱電機株式会社	株式会社伊勢丹
三菱レイヨン株式会社	エーザイ株式会社
日本郵船株式会社	小田急電鉄株式会社
三菱信託銀行株式会社	株式会社西武百貨店
三菱倉庫株式会社	東亜建設工業株式会社
明治生命保険相互会社	東亜燃料工業株式会社
株式会社竹中工務店	戸田建設株式会社
千代田化工建設株式会社	日産火災海上保険株式会社
東京急行電鉄株式会社	日本信託銀行株式会社
日興証券株式会社	株式会社日立製作所
麒麟麦酒株式会社	富士紡績株式会社
東京海上火災保険株式会社	本田技研工業株式会社
日本光学工業株式会社	精工産業株式会社
三菱アセテート株式会社	誠和株式会社
三菱アルミニウム株式会社	

(昭和51年3月31日現在 敬称略・順不同)

2. 人事報告

役員異動

異動月日	役職名	氏名	就退区分	備考
50. 7. 15	評議員	坂本太郎	就任	日本学士院会員
"	"	久松潛一	"	東京大学名誉教授
50. 3. 2	"	"	逝去	"

職員異動

異動月日	役職名	氏名	就退区分	備考
50. 4. 1	研究員(兼任)	越智重明	就職	
"	"	松濤誠達	"	
"	"	渡辺紘良	"	
"	事務助手	勝又けい子	"	
50. 7. 25	研究員(兼任)	鈴木俊	逝去	
50. 12. 31	研究員(専任)	祖南洋	退職	
51. 1. 31	研究員(兼任)	市古宙三	"	
"	事務助手	勝又けい子	"	
51. 2. 1	"	高木美智子	就職	
51. 3. 31	研究員(専任)	土肥義和	退職	
"	研究助手	小野田サヨ子	"	

3. 会計報告

昭和50年度財団法人東洋文庫収支決算書

昭和51年3月31日現在

収入の部		支出の部	
科目	金額(千円)	科目	金額(千円)
一般会計		一般会計	
国庫補助金	30,849	経常費	55,733
維持会費収入	36,357	事業費	36,609
及寄付金収入			
財産収入	7,354		
事業収入	16,258		
雑収入	1,394		
前年度繰越金	130		
小計	92,342	小計	92,342
特別会計		特別会計	
ユネスコ東アジア文化研究センター収入	63,072	ユネスコ東アジア文化研究センター経費	63,072
国庫補助金	56,079	経常費	36,895
ユネスコ他補助金	6,052	事業費	26,177
財産収入	13	文部省科学研究費	14,040
雑収入	928	民間研究助成金研究費	12,380
文部省科学研究費	14,040		
国庫補助金	12,380		
民間研究助成金			
小計	89,492	小計	89,492
合計	181,834	合計	181,834

国庫補助金年度別受入額一覧表

年度別	一般会計	特 別 会 計			合 計
		ユネスコ アジア文化 センター	東アジア 文化研究 センター	科学研究費 補助金	
	千円	千円	千円	千円	千円
22	320	—	—	—	320
23	600	—	—	—	600
24	720	—	—	—	720
25	530	—	—	—	530
26	350	—	1,070	1,070	1,420
27	600	—	150	150	750
28	1,000	—	4,500	4,500	5,500
29	1,000	—	1,300	1,300	2,300
30	3,850	—	4,310	4,310	8,160
31	6,850	—	1,940	1,940	8,790
32	6,850	—	2,650	2,650	9,500
33	6,850	—	500	500	7,350
34	6,765	—	5,640	5,640	12,405
35	6,562	—	6,010	6,010	12,572
36	6,000	10,000	3,600	13,600	19,600
37	6,000	11,000	2,010	13,010	19,010
38	6,000	12,000	2,785	14,785	20,785
39	7,828	12,571	3,350	15,921	23,749
40	8,382	12,550	8,895	21,445	29,827
41	9,500 (9,166)	14,500 (14,257)	9,160	23,417	32,583
42	11,500 (10,901)	16,000 (15,622)	7,560	23,182	34,083
43	11,500	16,700	9,900	26,600	38,100
44	13,500 (13,236)	21,700 (21,466)	7,300	28,766	42,002
45	15,300 (14,827)	24,500 (24,061)	6,900	30,961	45,788
46	17,200 (16,659)	27,600 (27,177)	13,900	41,077	57,736
47	19,000 (18,377)	31,000 (30,430)	11,000	41,430	59,807
48	25,000 (24,173)	39,500 (38,636)	3,300	41,936	66,109
49	29,000 (28,383)	50,000 (49,277)	9,420	58,697	87,080
50	33,000 (30,849)	58,000 (56,079)	14,040	70,119	100,968
51	34,500	60,565	0	60,565	95,065

下段記入の（ ）内は決算額

文部省科学研究費補助金年度別受入一覧表

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補 助 金 額 (円)
26	研究成果刊行費	ブラーフマナとシェラウ ターストラとの関係	辻 直四郎	400,000
	〃	日清戦役外交史の研究	岩井大慧	200,000
	〃	支那経済史考証	和田 清	390,000
	各 個 研 究	古代中国の民族構成の研究	〃	80,000
27	研究成果刊行費	明代建州女直史研究	園田一亀	150,000
28	機 関 研 究	スタイン博士蒐集敦煌文 書のマイクロフィルム撮 影並びにその整理研究	岩井大慧	4,500,000
29	〃	〃	〃	1,300,000
30	〃	〃	〃	4,000,000
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 I	神田信夫	310,000
31	機 関 研 究	スタイン博士蒐集敦煌文 書のマイクロフィルム撮 影並びにその整理研究	岩井大慧	1,700,000
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 II	神田信夫	240,000
32	機 関 研 究	スタイン博士蒐集敦煌文 書のマイクロフィルム撮 影並びにその整理研究	岩井大慧	1,700,000
	総 合 研 究	スタイン将来敦煌文献の 調査研究	鈴木 俊	580,000
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 III	神田信夫	370,000
33	総 合 研 究	スタイン将来敦煌文献の 調査研究	鈴木 俊	500,000
34	機 関 研 究	中世以降における東アジ ア諸地域の貴重文献の整 理研究	岩井大慧	4,000,000
	総 合 研 究	スタイン将来敦煌文献の 調査研究	鈴木 俊	800,000
	〃	日唐法制経済文書の比較 研究—正倉院文書と敦煌 文書—	仁井田 陞	500,000
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 IV	神田信夫	340,000

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補 助 金 額 (円)
35	機 関 研 究	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩井大慧	4,800,000
	総 合 研 究	西域出土古文書・古文獻の調査研究	鈴木俊	900,000
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 V	神田信夫	310,000
36	機 関 研 究 B	イスラーム諸国の社会構造の研究	榎 一雄	1,500,000
	〃 C	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩井大慧	600,000
	総 合 研 究	西域出土古文書・古文獻の調査研究	鈴木俊	1,200,000
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 VI	神田信夫	300,000
37	機 関 研 究 B	イスラーム諸国の社会構造	榎 一雄	1,700,000
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 VII	神田信夫	310,000
38	特 定 研 究	イスラーム諸国の社会構造	榎 一雄	1,700,000
	研究成果刊行費	日本文・中国文・朝鮮文等逐次刊行物目録	岩井大慧	1,045,000
	各 個 研 究	李朝仁祖朝に於ける贖還問題と対清貿易	森岡康	40,000
39	特 定 研 究 (2)	イスラーム諸国の社会構造	榎 一雄	1,700,000
	総 合 研 究	宋代以降の中国農村社会経済関係語彙に関する研究	青山定雄	750,000
	研究成果刊行費	中国地方志連合目録	岩井大慧	850,000
	各 個 研 究	北日本における晩期縄文文化の研究	渡辺兼庸	50,000
40	機 関 研 究 A	地方志にもとづく中国社会の研究	田川孝三	5,400,000
	特 定 研 究 (2)	イスラーム諸国の社会構造	榎 一雄	1,440,000
	総 合 研 究	宋代以降の中国農村社会経済関係語彙に関する研究	青山定雄	675,000
	研究成果刊行費	梅原考古資料目録(朝鮮之部)	榎 一雄	550,000
	〃	漢籍叢書所在目録	森 鹿三	830,000

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補 助 金 額 (円)
41	機 関 研 究 A	地方志にもとづく中国社 会の研究	田 川 孝 三	4,140,000
	特 定 研 究 (2)	日本の近代化過程に対す る国際的評価とその背景	榎 一 雄	2,700,000
	綜 合 研 究	金石文を主とした朝鮮史 の基礎的研究	末 松 保 和	1,200,000
	〃	パーリ語辞典編集のため の基礎的研究	辻 直四郎	300,000
	研究成果刊行費	漢籍分類目録集部 (東洋 文庫の部)	〃	820,000
				9,160,000
42	機 関 研 究 A	地方志にもとづく中国社 会の研究	田 川 孝 三	3,360,000
	特 定 研 究 (2)	日本の近代化過程に対す る国際的評価とその背景	榎 一 雄	2,700,000
	綜 合 研 究	金石文を主とした朝鮮史 の基礎的研究	末 松 保 和	1,200,000
	〃	パーリ語辞典編集のため の基礎的研究	辻 直四郎	300,000
				7,560,000
43	一 般 研 究 A	唐末以降1940年代にいた る中国の地主制の体系的 研究	青 山 定 雄	7,080,000
	特 定 研 究 (2)	日本の近代化過程に対す る国際的評価とその背景	榎 一 雄	2,820,000
				9,900,000
44	一 般 研 究 A	唐末以降1940年代にいた る中国の地主制の体系的 研究	青 山 定 雄	2,000,000
	特 定 研 究 (2)	日本の近代化過程に対す る国際的評価とその背景	榎 一 雄	2,820,000
	綜 合 研 究 A	中国周辺諸言語に関する 中国資料の調査研究	辻 直四郎	2,000,000
	研究成果刊行費	唐 代 の 服 飾	原 田 淑 人	480,000
				7,300,000
45	一 般 研 究 A	唐末以降1940年代にいた る中国の地主制の体系的 研究	青 山 定 雄	800,000
	綜 合 研 究 A	中国周辺諸言語に関する 中国資料の調査研究	辻 直四郎	1,600,000
	海外学術調査	インド・シッキム・プー タン・ネパールにおける チベット文献の調査と収 集	榎 一 雄	4,500,000
				6,900,000

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補 助 金 額 (円)
46	一般研究 A	日本を中心とする近代東アジア国際関係の史的 研究	市古宙三	11,500,000
	総合研究 A	中国周辺諸言語に関する 中国資料の調査研究	辻直四郎	1,400,000
	〃	李朝後半期の農村社会文 化	田川孝三	1,000,000
				} 13,900,000
47	一般研究 A	日本を中心とする近代東 アジア国際関係	市古宙三	5,000,000
	総合研究 A	李朝後半期の農村社会文 化	田川孝三	1,600,000
	海外学術調査	インド・シッキム・プー タン・ネパールにおける チベット文献の調査と収 集	榎一雄	4,400,000
				} 11,000,000
48	特定研究 (2)	両大戦間の中国をめぐる 国際情勢	市古宙三	2,500,000
	海外学術調査	東洋文庫インド・シッキ ム・ネパール調査隊収集 チベット文献の整理と目 録作成	北村甫	800,000
				} 3,300,000
49	一般研究 A	南アジアにおける文化変 容の研究および資料の収 集	榎一雄	6,690,000
	〃 D	明代の地方行政区劃、府 ・州・県の地理的沿革に 関する研究	鶴見尚弘	230,000
	特定研究 (2)	両大戦間の中国をめぐる 国際情勢	市古宙三	2,500,000
				} 9,420,000
50	一般研究 A	イスラム社会の構造に関 する歴史学的研究	辻直四郎	11,500,000
	〃 D	敦煌出土寺院関係古文書 の基礎的研究	土肥義和	290,000
	特定研究 (2)	両大戦間の中国をめぐる 国際情勢	榎一雄	2,250,000
				} 14,040,000

V 役職員名簿

昭和51年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職名は、以下のとおりである。

1. 役員

役職名	氏名	現職
理事長	辻直四郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
専務理事	榎一雄	国立国会図書館支部東洋文庫長 財団法人東洋文庫研究部長 財団法人東洋文庫図書部長 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター所長 東京大学名誉教授
理事	有光次郎	東京家政大学学長
〃	小笠原光雄	株式会社三菱銀行相談役
〃	川北禎一	株式会社日本興業銀行相談役
〃	河野六郎	東京教育大学教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター副所長
〃	酒井杏之助	株式会社第一勧業銀行相談役
〃	高垣寅次郎	日本学士院会員 一橋大学名誉教授
〃	徳川宗敬	神宮大宮司 社団法人日本博物館協会会長
〃	松本重治	財団法人国際文化会館理事長
〃	山本達郎	国際基督教大学教授 日本学士院会員 東京大学名誉教授
監事	岡東浩	東山農事株式会社相談役
評議員	梅原末治	京都大学名誉教授
〃	岡本道雄	京都大学学長
〃	久野洋	慶応義塾大学塾長
〃	坂本太郎	国学院大学教授 日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	中山素平	株式会社日本興業銀行会長
〃	長谷川周重	住友化学工業株式会社社長
〃	林健太郎	東京大学学長
〃	前田敏男	京都大学学長
〃	俣野健輔	飯野海運株式会社会長
〃	村井資長	早稲田大学総長

2. 東洋学連絡委員会委員

役職名	氏名	現職
委員長	辻直四郎	(前出)
委員	板野長八	広島大学名誉教授
〃	岩生成一	日本学士院会員
〃	江上波夫	上智大学教授 東京大学名誉教授
常任委員	榎一雄	(前出)
委員	貝塚茂樹	京都大学名誉教授
〃	塚本善隆	華頂学園長, 元京都国学博物館館長
〃	長尾雅人	鉄鋼短期大学教授 京都大学名誉教授
〃	福井康順	早稲田大学名誉教授
〃	松本信広	慶応義塾大学講師 慶応義塾大学名誉教授
〃	宮崎市定	京都大学名誉教授
〃	森鹿三	仏教大学教授 京都大学名誉教授
常任委員	山本達郎	(前出)
委員	吉川幸次郎	日本芸術院会員 京都大学名誉教授

3. 名誉研究員

氏名	現職
W. T. デ・バリイ	コロンビア大学教授
P. ドゥミエヴィユ	フランス学士院会員, 元コレージュ・ド・フランス教授
S. エリセーエフ	ソルボンヌ大学教授, 元ハーヴァード・エンチン研究所長
W. フックス	元ケルン大学教授
B. カルルグレン	元スウェーデン王立極東古代博物館館長
E. O. ライシャワー	ハーヴァード大学教授, 元駐日アメリカ大使
W. サイモン	イギリス学士院会員, 元ロンドン大学教授
G. トウッチ	ローマ大学教授, イタリア中東亞研究所所長
A. フォン・ガベイン	元ハンブルグ大学教授
A. R. デイヴィス	シドニー大学教授
J. デュルネ	第7パリ大学教授, フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
L. ペテック	ローマ大学教授

4. 職 員

研 究 部

榎 一雄 (部長, 前出), 護 雅夫 (部長代理, 東京大学教授), 田中正俊 (部長補佐, 東京大学教授), 岩村 忍 (研究顧問, 京都大学名誉教授), 村田治郎 (研究顧問, 京都大学名誉教授), 青山定雄 (聖心女子大学講師), 荒 松雄 (東京大学教授), 岩生成一 (前出), 宇都木 章 (青山学院大学教授), 梅原末治 (前出), 岡田英弘 (東京外国語大学教授), 越智重明 (九州大学教授), 亀井 孝 (一橋大学教授), 川崎信定 (筑波大学助教授), 神田信夫 (明治大学教授), 菊池英夫 (北海道大学助教授), 北村 甫 (東京外国語大学教授), 草野 靖 (熊本大学助教授), 河野六郎 (前出), 後藤均平 (立教大学教授), 佐伯 富 (京都大学名誉教授), 酒井憲二 (山梨県立女子短期大学助教授), 滋賀秀三 (東京大学教授), 末松保和 (学習院大学名誉教授), 周藤吉之 (東洋大学教授, 東京大学名誉教授), 関野 雄 (東京大学教授), 田川孝三 (日本大学講師), 田中時彦 (東海大学教授), 竺沙雅章 (京都大学助教授), 辻 直四郎 (前出), 鶴見尚弘 (横浜国立大学助教授), 鳥海 靖 (東京大学助教授), 中嶋 敏 (大東文化大学教授, 東京教育大学名誉教授), 永田雄三 (東京外国語大学助手), 坂野正高 (東京大学教授), 藤枝 晃 (京都大学教授), 松濤誠達 (大正大学講師), 松村 潤 (日本大学教授), 松本信広 (前出), 三根谷 徹 (東京大学教授), 山口瑞鳳 (東京大学助教授), 山崎元一 (国学院大学助教授), 山根幸夫 (東京女子大学教授), 山本達郎 (前出), 渡辺紘良 (独協医科大学講師), 小野田サヨ子, 金子良太, ケツンサンボ, 土肥義和, 本庄比佐子

図 書 部

榎 一雄 (部長, 前出), 池田直人, 大塚祐子, 小林輝男, 小山 勲, 竹之内信子, 児野寿満子, 秩父良子, 中島正之, 西園一男, 西園利子, 広瀬洋子, 森岡康, 渡辺兼庸

総 務 部

早船艶雄 (部長), 稲村 優, 宇田川善吉, 染谷コウ, 高木美智子, 平野 豊, 光田憲雄, 谷治嘉紀

5. 臨時職員

昭和50年4月1日から昭和51年3月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は以下のとおりである。

飯島明子，飯田隆子，磯崎和子，大嶋立子，小沢 影，川越泰博，川村康博，小松久男，佐々木淑子，清水宏祐，武居明子，中山皎子，古沢宣子，星 実千代，森川孝典，山名弘史，渡辺 修

VI 東洋文庫附置

ユネスコ東アジア文化研究センター

1. 調査研究事業

A. 「アジアの文化価値とその現代的条件への適応」

【年度】10ヵ年計画初年度

【概要】本計画は、センターがユネスコ本部に提案し、1974年のユネスコ総会で採択された研究計画で、センターの中心事業である。本年度は、51年度から本格的に調査を行なうための準備期間とし、51年3月に、ユネスコ本部が主催したこの研究計画のための、アジア地域文化研究機関代表者会議を、センターが受入機関となって実施した。また49年度まで行なってきた「現代アジア文明の地域的特色の比較研究」で扱った「アジア諸国の初等教育に於ける自国文化の位置づけ」に関する調査を今年度も継続して以下の様に実施した。

【専門委員】榎 一雄（委員長）、阿部 洋、馬越 徹、津田元一郎、豊田俊雄、弘中和彦。

【事業内容】本年度は来日中のアジア諸国の研究者を迎えて下記の研究会を行なった。

6月14日 アフメット・メテ・トゥンジョク Ahmet Mete Tunçöku（トルコ）

9月26日 アミン・スウィーニー Amin Sweeney（マレーシア）

11月1日 インドゥラニ・ノグチ R.W.M. Indrani-Noguchi（スリランカ）

3月6日 アショク・サーカー Asok Sircar（インド）

また3月29日には専門委員の馬越 徹氏が「韓国のカリキュラム改訂について」の研究発表を行なった。

【アジア地域文化研究機関代表者会議】

〔主催〕 ユネスコ

〔受入機関 Host Institution〕 ユネスコ東アジア文化研究センター

〔期日〕 昭和51年3月10日(水)より同月16日(火)まで

〔会場〕 笹川記念会館（東京都港区高輪2丁目1番17号）

〔参加者宿舎〕 ホテル高輪

〔参加者〕（アルファベット順）

アニスウッザマン、チッタゴン大学ベンガル文学教授(バングラデシュ)。Professor

Anisuzzaman, Professor of Bengali, University of Chittagong, Chittagong, Bangladesh.

ハルジャ・ワルダナ・バクティアル, インドネシア大学文学部社会学・社会史教授(インドネシア)。Professor Harsja Wardhana Bachtiar, Professor of Sociology and Social History, Faculty of Letters, University of Indonesia, Jakarta, Indonesia.

ボボジャン・ガフロウィッチ・ガフーロフ, アカデミー会員, ソ連邦科学アカデミー付属東洋学研究所所長(ソ連)。Professor Bobodjan Gafurovich Gafurov, Academician, Director, Institute of Oriental Studies, Academy of Sciences of the USSR, Moscow, USSR.

カッラル・フサイン, バルチスタン大学副学長(パキスタン)。Professor Karrar Husain, Vice-Chancellor, University of Baluchistan, Quetta, Pakistan.

高 柄翊, ソウル大学人文科学部東洋史学科教授(韓国)。Professor Koh Byong-ik, Department of Asian History, College of Humanities, Seoul National University, Seoul, Korea.

ナセル・マザヘリー, ユネスコ・アジア文化文献センター副所長(イラン)。Dr. Nasser Mazaheri, Assistant General Director, Asian Cultural Documentation Centre for Unesco, Teheran, Iran.

前田陽一, 国際文化会館専務理事(日本)。Professor Yōichi Maeda, Managing Director, International House of Japan, Tokyo, Japan.

ナラヤナ・メノン, 国立芸術センター所長(インド)。Dr. Narayana Menon, Director, National Centre for the Performing Arts, Bombay, India.

シャグダルジャヴ・ナツァクドルジ, モンゴル科学アカデミー付属歴史研究所所長(モンゴル)。Professor Shagdarjav Natsagdorj, Director, Institute of History, Academy of Sciences of MPR, Ulan Bator, Mongolian People's Republic.

セラフィン・D・キアソン, 国立図書館館長(フィリピン)。Dr. Serafin D. Quiason, Director, The National Library, Manila, The Philippines.

モハマッド・アクバル・シャリージー, 文化省視聴覚文化部部長(アフガニスタン)。Mr. Mohammad Akbar Shalizi, Chief, Audio-Visual Department, Ministry of Information and Culture, Kabul, Afghanistan.

プラヤ・ラジ・シャルマ, トリプバン大学ネパール・アジア研究所所長(ネパール)。Dr. Prayag Raj Sharma, Dean, Institute of Nepal and Asian Studies, Tribhuvan University, Kathmandu, Nepal.

パリド・ワルディ・スディン, マレーシア工科大学付属居住環境工学部部長(マレーシア)。Mr. Parid Wardi Sudin, Dean, Faculty of Built Environment, University of Technology Malaysia, Kuala Lumpur, Malaysia.

ウィジャラトゥネ・バンダ・ウエウエガマ, 文化省次官補(スリランカ)。Mr. Wijera-

ratne Banda Wewegama, Senior Assistant Secretary, Ministry of Cultural Affairs, Colombo, Sri Lanka.

アドゥン・ウィッチェンチャロエン, シルパコン大学学長 (タイ)。Professor Adul Wichiencharoen, Rector, Silpakorn University, Bangkok, Thailand.

〔国際機関代表者・オブザーバー〕

チダンバラナタン, 国際連合大学企画担当総長秘書。Mr. S. Chidambaranathan, Government Relations Officer, Division of Planning and Development, United Nations University, Tokyo.

河野 靖, ユネスコ文化研究部専門職員。Mr. Yasushi Kōno, Division for Cultural Studies and Circulation, Unesco, Paris.

山本達郎, 国際哲学人文科学会議会議長。Professor Tatsurō Yamamoto, President, International Council of Philosophy and Humanistic Studies.

榎 一雄, ユネスコ東アジア文化研究センター所長。Professor Kazuo Enoki, Director, The Centre for East Asian Cultural Studies, Tokyo.

河野六郎, ユネスコ東アジア文化研究センター副所長。Professor Rokurō Kōno, Deputy Director, The Centre for East Asian Cultural Studies, Tokyo.

生田 滋, ユネスコ東アジア文化研究センター調査資料室長。Mr. Shigeru Ikuta, Chief, Research and Documentation Section, The Centre for East Asian Cultural Studies, Tokyo.

〔議題〕

1. 開会の辞, 河野 靖ユネスコ代表
2. 議長, 副議長, 記録担当者の選出
議 長: 前田陽一 (日本)
副 議 長: B.G. ガフーロフ (ソ連) アドゥン・ウィッチェンチャロエン (タイ)
記録担当者: S.D. キアソン (フィリピン)
3. 基調報告, 河野 靖ユネスコ代表
4. 調査研究の枠組の設定
5. 調査研究計画の推進の手段と方法
6. アジア地域の文化研究の現状
7. 研究資料, 情報の交換のための連絡組織の設立とアジア地域研究機関相互間の協力
8. 最終報告書の採択
9. 閉 会

〔日程〕

- 3月10日(水) 午前：参加者登録，開会式，討論，午後：討論，夜：日本ユネスコ
国内委員会事務総長招待レセプション・パーティー
- 3月11日(木) 午前：討論，午後：討論
- 3月12日(金) 午前：討論，午後：討論
- 3月13日(土) 午前：討論，午後：国際文化会館理事長招待昼食会
- 3月14日(日) 午後：都内見学，夜：ユネスコ東アジア文化研究センター所長招待
夕食会
- 3月15日(月) 午前：討論，午後：討論
- 3月16日(火) 午前：討論，午後：討論，最終報告書採択，閉会式

B. 「世界における東洋学の現状調査」

【年度】7ヵ年計画第4年度

【専門委員】護 雅夫（委員長），北村 甫，武田幸男，田中正俊，鳥海 靖，松村
潤，山崎元一。

【事業内容】本年度は昨年度にひきつづいて、「日本におけるアジア研究および日本研
究の現状」の調査を行ない，日本研究の部を19領域に，アジア研究の分野を27領域に
分けたうち，以下の領域についての調査報告がそれぞれの専門家よりあった。

日本研究の部：文学，中近世（久保田淳），文学，近現代（浅井 清），仏教（田村
芳郎），歴史，近現代（鳥海 靖），現代政治（栗原 彬），歴史古代（笹山晴生），現
代経済（梅谷俊一郎）。

アジア研究の部：中国現代史（衛藤藩吉），現代東南アジア I（石井米雄）。

なお，報告書の出版については次項「連絡および情報交換事業」を参照されたい。

C. 「アジアの口碑伝承に関する研究」

【期間】本調査研究は放送文化基金の援助金によって実施したもので，昭和49年9月
より51年8月までの2ヶ年計画である。ここでは50年4月より51年3月までの事業経
過を報告する。

① 「口碑伝承研究の現状調査」

【専門委員】大林太良（委員長），荒木博之，大島建彦，坪井洋文，直江広治。

【事業内容】

昨年度にひきつづいて，専門委員会を中心とした以下の研究会を開催した。

第5回研究会：報告・大林太良 “Selected Works on Theories of Folk Literature”
(50年5月30日)

第6回研究会：報告・萩中美枝 「アイヌの説話と民間伝承」(50年7月5日)

第7回研究会：報告・アミン・スウィーニー Amin Sweeney「マレーシアの口承文芸」“Folk Literature of Malaysia”（50年9月26日）

第8回研究会：報告・小沢俊夫「日本昔話の特質」（50年11月1日）

第9回研究会：報告・佐久間惇一「越後瞽女について」（50年12月20日）

また、日本における口碑伝承研究団体一覧を作成するため、アンケート調査を行なった。

㊥ 「アジアの影絵劇の研究」

【アジアの影絵劇国際セミナー】

〔主催〕 ユネスコ東アジア文化研究センター

〔期日〕 昭和50年6月19日(木)より同月21日(土)まで

〔会場〕 VAN99ホール（東京都港区北青山3丁目5番地6号）

〔参加者宿舎〕 ホテル・ニューオータニ

〔参加者〕（アルファベット順）

メティン・アント、アンカラ大学演劇学科教授（トルコ）。Professor Metin And, Professor, Theater Department, University of Ankara, Ankara.

ラマナ・ムルティー、中央皮革研究所研究員（インド）。Mr. M.V. Ramana Murty, Scientist (puppetry), Central Leather Research Institute, Madras.

マッターニー・ルトゥニン、タマサート大学教養学部上級講師（タイ）。Mrs. Mat-tani Rutnin, Senior Lecturer, Faculty of Liberal Arts, Thammasat University, Bangkok.

アミン・スウィーニー、国立マレーシア大学マライ言語・文学・文化研究所上級講師（マレーシア）。Dr. Amin Sweeney, Senior Lecturer, Institute of Malay Language, Literature and Culture, National University of Malaysia, Kuala Lumpur.

〔オブザーバー〕

マイラ・ボーンヤラタベイ、チュラロンコン大学音楽講師（タイ）。Mrs. Myra Boonyaratavej, Professor of Music, International School, and Special Lecturer, Chulalongkorn University, Bangkok.

ヘルガ・ブルゲル・ウェルレ、香港アート・センター企画担当（香港）。Mrs. Helga Burger-Werlé, Programme-Coordinator, The Hong Kong Arts Centre, Hong Kong.

トーマス・インモース Professor Thomas Immoos. 上智大学教授

大林太良 東京大学教授

小泉文夫 東京芸術大学教授

宮尾慈良 早稲田大学大学院生

〔議題〕

1. 影絵劇の現状とその研究の現状
2. 影絵劇の発達の過程
3. 影絵劇の儀礼的機能とスクリーンの持つ意味
4. 舞台芸術のさまざまなジャンルにおける影絵劇の位置とその特色

【議長】 アミン・スウィーニー（マレーシア）

〔日程〕 6月19日(木) 午前：開会式，議長選出，トルコの影絵劇の紹介，マレーシアの影絵劇の紹介，午後：タイの影絵劇の紹介，NHK訪問，夜：ユネスコ東アジア文化研究センター所長招待夕食会。

6月20日(金) 台湾の影絵劇の紹介，インドの影絵劇の紹介，討論，夜：歌舞伎観劇。

6月21日(土) 討論，閉会式。

なお本セミナーの議事録は下記の *East Asian Cultural Studies*, Vol. XV, Nos. 1-4, 1976 に掲載した。

【映画の作成】

〔タイトル〕 「光と影の神秘——Shadow Plays of Malaysia——」

〔企画〕 ユネスコ東アジア文化研究センター

〔製作〕 ジャストプロ

〔内容〕 16mm，カラー，34分

1. 「アジアの影絵劇国際セミナー」
2. トルコ，台湾，インド，タイの影絵劇の紹介
3. マレーシア・ケランタン州の影絵劇

2. 連絡および情報交換事業

A. 文献目録の作成

「日本における東洋学の回顧と展望——1963-1972」

Oriental Studies in Japan: Retrospect and Prospect, 1963-1972

本書は上記調査研究「世界における東洋学の現状調査」の成果を英文で出版するもので、各専門領域毎に分冊で出版し、最後に合本する予定でいる。本年度は以下のものを出版した。

- イ. 日本編

稲岡耕二著「文学古代A」*Literature of Ancient Japan (A)*

篠原昭二著「文学古代B」*Literature of Ancient Japan (B)*

田丸徳善著「宗教」*Japanese Religion (Non-Buddhism)*

末成道男著「人類学」*Anthropology and Ethnology*

ロ. アジア編

大河内康憲著「言語学A」*Linguistics (A)*

梅田博之著「言語学B」*Linguistics (B)*

山口瑞鳳著「チベット学」*Tibetan Studies*

前野直彬著「中国文学」*Chinese Literature*

小山正明著「中国中世史」*History of Mediaeval China*

衛藤瀋吉著「現代中国」*Contemporary China*

設楽国広著「現代西アジア・北アフリカ」*Modern West Asia and North Africa*

B. 図書の寄贈および交換

本年度も例年どおり、国内の大学、研究所、各国大使館など約200ヶ所、国外の大学、研究所、国際機関など約200ヶ所に、定期的にセンターの出版物を寄贈した。また国内の研究機関約50ヶ所、国外の研究機関約100ヶ所より定期的に出版物の寄贈を受けた。

C. 「日本における近代中国研究の現状」調査

【連絡委員】安藤彦太郎、市古宙三、今堀誠二、衛藤瀋吉、川勝 守、河地重造、鈴木中正、田中正俊、藤本 昭、堀川哲男、山田辰雄。

昨年度にひきついで、日本の近代中国研究者の姓名、住所、現職、専門領域、業績の調査をおこない、名簿と業績をカード化した。本カードは東洋文庫近代中国研究室参考図書室で研究者への便に供されている。

D. 機関誌 *East Asian Cultural Studies* の刊行

本年度は、Vol. XV, Nos. 1-4 合併号を刊行した。内容は、上記調査研究「アジアの口碑伝承に関する研究」で行なった「アジアの影絵劇国際セミナー」の報告と、昨年度まで実施した調査研究「東アジア諸国の近代化の過程における伝統文化の変容とその新発展」の「東アジア諸国における国語の形成と近代文学の誕生」の部の報告とである。目次は以下のとおりである。

An International Seminar on the Shadow Plays of Asia

Foreword

Summary of Discussion, by Louisa Read

Report of an International Seminar on the Shadow Plays of Asia

The Malay Shadow Play, with Special Reference to the Wayang Siam, by
Amin Sweeney

Nang Talung and Thai Life, by Mattani Rutnin

Nang Yai: The Thai Classical Shadow Play and the Wat Kanon Troupe
of Rajburi, by Mattani Rutnin

Pei Kau Hi: The Taiwanese Shadow Theatre, by Miyao Jiryō

The Art and Science of Leather Puppetry, by M. V. Ramana Murty

Tholubommalata (Chāya Charma Chitra Nātakam): Wayang Kulit in India,
by M. V. Ramana Murty

Turkish Shadow Theatre: Karagöz, by Metin And

Wayang Kulit: A Javanese Shadow Theatre, by Soedarsono

Transformation and New Development of Traditional Cultures in East Asian
Countries in the Course of Modernization: National Language and Modern
Literature

The Report of the Research on the National Language and the Modern
Literature, by Rokuō Kōno

Formation of the National Language and Development of Modern Literature
in Burma, by Kyaw Swe

Introduction to the Development of Bahasa Indonesia, by Djoko Kentjono

Le Développement de la langue nationale et de la littérature khmère, by
Duong Sarin

Vietnamese National Language and Modern Vietnamese Literature, by
Nguyen Khac-Kham

3. 資料の調査・収集事業

A. 資料調査

本事業は東アジア諸国で出版されている東アジア諸国語で書かれた東アジア文化に関する学術書・学術雑誌を調査することを目的としている。

本年度は朝鮮語で書かれた学術雑誌を調査した。志部昭平、辻 星児、藤本幸夫、平木 実、油谷幸利の各氏に委嘱して、日本の研究機関所蔵の朝鮮語の学術雑誌および図書目録の調査を行なった。調査した機関は以下である。東洋文庫、東京大学付属図書館、同東洋文化研究所、同東洋史研究室、同考古学研究室、同文化人類学研究室、国立国会図書館、東京外国語大学付属アジア・アフリカ言語文化研究所、国立教育研究所、天理図書館、朝鮮学会、京都大学付属図書館、同人文科学研究所、大阪外国語大学。

また辻 星児氏を韓国に派遣し、在韓中の梅田博之、大谷森繁の両氏の協力を得て、韓国における学術雑誌の出版状況を調査した。調査した研究機関は以下である。中央大学校（韓国学研究所、人文学研究所）、檀国大学校（東洋学研究所、博物館）、東亜大学校、東国大学校、梨花女子大学、韓国外国語大学、暁星女子大学、啓明大学（東西文化研究所、日本文化研究所、韓国学研究所、産業経営研究所）、建国大学校（人文科学研究所、学術研究院）、高麗大学校（民族文化研究所、労働問題研究所）、慶熙大学校、慶北大学校、釜山大学校、ソウル大学校（東亜文化研究所）、西江大学校（人文科学研究所）、首都女子師範大学、淑明女子大学校（亜細亜女性問題研究所）、成均館大学校、嶺南大学校（韓日関係研究所、博物館）、延世大学校（人文科学研究所）、国立中央図書館、大韓民国国会図書館、国立中央博物館、韓国図書館協会。

B. 資料の収集・整理

本年度は、上記の韓国での学術雑誌の出版状況の調査の際、朝鮮語の学術雑誌のバックナンバーを収集した。

また、田川孝三氏の収集した朝鮮善本のマイクロフィルムの一部を焼付けた。

4. 学術図書出版事業

A. 東アジア文化研究シリーズ（英文）

B. ロブソン著「革命後トルコ演劇の発達史」Bruce Robson, *The Drum Beats Nightly: the development of the Turkish drama as a vehicle for social and*

political comment in the post-revolutionary period—1924 to the present.

その目次は以下のとおりである。

A Note on the Turkish Alphabet

Foreword

Introduction

- 1 Main Fare
- 2 The Drum Beats Nightly
- 3 Defining a Purpose

PART ONE

- 4 Two Traditions—The Shadow Play and the *Orta Oyunu*
- 5 Two Traditions—The Influence of European Theatre in Turkey
Two published plays Vatan yahut Silistre and Akif Bey by Namık Kemal

PART TWO

- 6 Hint a Fault and Hesitate Dislike
Two published plays Paydos and Harput'ta Bir Amerikalı by Cevat Fehmi Başkut
- 7 The Run of the Mill
Three published plays Yalan by Orhan Asena, Ocak by Turgut Özakman, and Merdiven by Nazım Kurşunlu
- 8 The Uses of Legend and Myth
Two published plays Midas'ın Kulakları and Kurban by Güngör Dilmen Kalyoncu
- 9 “Kızım, Sana Söyleyorum, Gelin, Sen Anla!”
Two published historical plays Hurrem Sultan by Orhan Asena and Deli İbrahim by A. Turan Oflazoğlu
- 10 New Interest in Village Life and Culture
Two published plays Nahnlar and Derya Gülü by Necati Cumalı
- 11 Concern
Three published plays Pusuda, Karaların Memetleri, and Sultan Gelin by Cahit Atay and one published play Mayın by Fikret Otyam
- 12 The Race to Get Things Said
Plays in performance 72 Koğuş by Orhan Kemal, Sarıpınar 1914

by *Turgut Özakman*, *Keşanlı Ali Destanı* by *Haldun Taner*, *Devri Süleyman* by *Aydın Engin*, and *Yalova Kaymakamı* by *Orhan Kemal*

13 The Troubles 1969–1975

General changes in the social and political atmosphere in Turkey's big cities

14 Industry in Our Hands

A study of the play Alpagut Olayı compiled by Haşmet Zeybek and the Dostlar Tiyatrosu of Istanbul

Conclusion

Who Is the Turk—From a Study of His Drama?

Postscript

Notes

Bibliography

Index

B. 専門書シリーズ

ティパコラウォン著 (チャディン・フラッド訳注) 「ラーマ1 世年代記」の編集を行なった。

5. 語学講習会

ピリピノ(タガログ)語講習会

【日時】50年7月21日(月)～8月29日(金)。毎週月曜日より金曜日、午前9時より正午まで。

【講師】土田 滋, アラセリ・マグララン Araceli Leonor Vasquez Magla'ang, ジュアン・ウィラヌーバ Juan David Villanueva.

6. 国際交流事業

A. 国際会議の開催および受け入れ

イ. 「アジアの影絵劇国際セミナー」

上記調査研究「アジアの口碑伝承に関する研究」参照。

ロ. 「アジア地域文化研究機関代表者会議」

上記調査研究「アジアの文化価値とその現代的条件への適応」参照。

B. 外国人研究者の招聘

アミン・スウィーニー Amin Sweeney (マレーシア), 50年9月16日より同月30日まで。

C. 外国人研究者による研究会の開催

アンネマリエ・フォン・ガベン Annemarie Von Gabain (西ドイツ) 「ベゼクリクの壁画にある仏僧の型について」 “Types of Buddhist Monks on the Wall-paintings in Bāzāklik” (50年6月14日)。

エブゲニィ・クィチャーノフ Evgenij Ivanovich Kychanov (ソ連邦) 「西夏の社会組織に関する史料」 (50年6月28日)。

D. 研究者および職員の海外派遣

生田 滋, 51年2月3日より同月26日まで。上記調査研究「アジアの文化価値とその現代的条件への適応」の「アジア地域文化研究機関代表者会議」実施に関するユネスコ本部事務局との打合せ等の目的で、オランダ、フランス、シンガポール、マレーシアに出張。

辻 星児。上記資料の「調査・収集」の項参照。

E. その他

上記事業以外の目的でセンターを訪れ、センターが便宜供与した外国人研究者は以下である。

- Dr. Bernard Lewis : Professor, Princeton University
Mr. Chên Shêng-jên : Visiting Researcher, Rikkyo University, Tokyo
Dr. Werner Burger : Researcher in Sinology, Munich
Dr. R. A. Stein : Professor, Collège de France, Paris
Prof. M.C. Subhadradis Diskul : Professor of Archaeology, Silpakorn University, Bangkok
Mr. Vassilis Koronakes : Researcher in Cinematography, Athens
Dr. Robert Irvine Davison Taylor : Senior Lecturer in Asian Politics, Department of Political Studies, University of Auckland
Ms. Pongsavutra Vilaswongse : Associate Professor, Department of History, Chulalongkorn University, Bangkok
Mr. W.B. Egginton : Reader in Japanese Language, Merbourne University
Miss Pensri Kanchanamai : Teaching Staff, Faculty of Social Sciences, Kasetsart University, Bangkok
Dr. Thamsook Numnonda : Teaching Staff, Faculty of Arts, Silpakorn University, Nakorn Pathom
Mr. Rajendra Tomar : Lecturer, Jawaharlal Nehru University, New Delhi
Miss Esta Serne Ungar : Ph.D. Candidate for Southeast Asian Studies, Cornell University, Ithaca, N.Y.
Mr. K.G. Aliev : Minister of Education, Azerbaijan Soviet Socialist Republic
Mr. V.A. Krivtsov : Vice-Director, USSR Academy of Sciences, Institute of the Far East
Mr. Jonas Eric Engberg : Administrative Assistant, Institute of Oriental Languages, University of Stockholm
Dr. Eritten Dean : Professor of History, California State College, Turlock
Dr. Herbert Durt : Member, L'Ecole française d'Extrême-Orient, Kyoto
Mr. M.R. Price : Second Secretary, Embassy of New Zealand, Tokyo
Dr. Tsu-Lin Mei : Associate Professor, Chinese Literature, Cornell University, Ithaca, N.Y.
Mr. Michael K. Ipson : Fulbright Fellow, Ph.D. Candidate, History and East Asian Languages, Harvard University, Cambridge, Mass.
Dr. Likhit Dhiravegin : Faculty of Political Science, Thammasat University, Bangkok

7. 業務報告

A. 運営委員会・顧問会議

運営委員会

- 前期 開催日 昭和50年5月20日(火)
- 報告 1. 昭和49年度事業報告及び決算報告について
2. 顧問の改選について
- 議題 1. 昭和50年度事業計画案及び予算案について
2. 運営委員の改選について
- 後期 開催日 昭和50年10月28日(火)
- 報告 1. 昭和50年度事業及び会計中間報告について
- 議題 1. 昭和51年度概算要求について
2. 「アジアの口碑伝承に関する研究」について

顧問会議

- 開催日 昭和50年5月20日(火)
- 報告 1. 昭和49年度事業報告及び決算報告について
2. 運営委員の改選について
- 議題 1. 昭和50年度事業計画案及び予算案について
2. 顧問の改選について

B. 役員異動

異動月日	役職名	氏名	就退区分	備考
50. 5. 19	運営委員	弥永貞三	退任	前東京大学資料編纂所所長
50. 5. 20	〃	土田直鎮	就任	東京大学資料編纂所所長
50. 7. 25	参与	鈴木俊	逝去	中央大学名誉教授
50. 10. 10	運営委員	笠木三郎	退任	前文部省学術国際局審議官
〃	〃	西宮一	〃	前文部省学術国際局ユニエスコ国際部長
50. 10. 11	〃	犬丸直	就任	文部省学術国際局審議官
〃	〃	中山昭	〃	文部省学術国際局ユニエスコ国際部長
51. 2. 13	顧問	大浜信泉	逝去	日本学士院会員
51. 3. 2	〃	久松潜一	〃	財団法人東洋文庫評議員 日本学士院会員，東京大学 名誉教授
51. 3. 31	副所長	河野六郎	退任	東京教育大学教授 財団法人東洋文庫理事

C. 職員異動

異動月日	職名	氏名	就退区分	備考
50. 12. 31	専門員	Nguyen Khac-Kham	退職	
51. 2. 1	〃	Louisa Read	就職	
51. 3. 31	普及室長	土肥義和	退職	

D. 会計報告

昭和50年度ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

昭和51年3月31日現在

収入の部		支出の部	
科 目	金額(千円)	科 目	金額(千円)
ユネスコ東アジア文化研究センター収入	63,072	ユネスコ東アジア文化研究センター経費	63,072
国庫補助金	56,079	職員俸給	33,051
ユネスコ他援助金	6,052	職員俸給	30,032
ユネスコ援助金	1,052	社会保険料	1,633
日本万国博覧会記念協会援助金	5,000	退職手当積立金	1,386
財産収入	13	一般管理運営費	3,844
雑収入	928	事業費	26,177
社会保険料等	126	運営委員会及び顧問会議費	113
雑収入	802	長期調査研究費	2,226
		一般調査研究費	2,028
		連絡及び情報交換費	5,908
		ドキュメンテーション活動費	3,284
		出版物の作成費	3,664
		研究会講習会開催費	1,015
		便宜供与費	364
		国際研究機関長会議費	7,575

昭和49年度放送文化基金助成・援助金収支決算書

自昭和49年9月 至昭和50年8月

収入の部		支出の部	
科 目	金額(千円)	科 目	金額(千円)
放送文化基金助成・援助金	8,079	放送文化基金助成・援助金経費	8,079
銀行利子	79	一般的調査研究費	1,463
		個別的調査研究費	3,616
		記録映画作成費	3,000

8. 役職員名簿

昭和51年3月31日現在のユネスコ東アジア文化研究センターの役職員は以下のとおりである。

A. 役員

所長 榎 一雄 副所長 河野六郎

B. 運営委員

氏名	現職
市村真一	京都大学東南アジア研究センター所長
伊藤良二	ユネスコアジア文化センター理事長
犬丸直	文部省学術国際局審議官
岩生成一	日本学士院会員
梅棹忠夫	国立民族学博物館館長
岡野澄	東京工業高等専門学校校長
尾高邦雄	上智大学教授 東京大学名誉教授
鹿子木昇	アジア経済研究所所長
北村甫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
今日出海	国際交流基金理事長
佐伯有一	東京大学東洋文化研究所所長
高田修	成城大学教授
土田直鎮	東京大学史料編纂所所長
中村元	東方学院長 東京大学名誉教授
中山昭	文部省学術国際局ユネスコ国際部長
服部四郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
林屋辰三郎	京都大学人文科学研究所所長
福井康順	早稲田大学名誉教授
前田陽一	国際文化会館専務理事 東京大学名誉教授
松本信広	慶応義塾大学名誉教授
山本達郎	日本基督教大学教授 日本学士院会員 東京大学名誉教授
吉川幸次郎	日本芸術院会員 京都大学名誉教授
渡辺洋三	東京大学社会科学研究所所長

C. 顧問

氏名	現職
木田 宏	文部省学術国際局長 日本ユネスコ国内委員会事務総長
東畑 精一	日本学士院会員 東京大学名誉教授
平塚 益徳	日本ユネスコ国内委員会会長
前田 充明	城西大学学長
宮沢 俊義	日本学士院会員 東京大学名誉教授

D. 参与

氏名	現職
青山 秀夫	京大名誉教授
岩淵 悦太郎	前国立国語研究所所長
織田 武雄	京大名誉教授
海後 宗臣	京大名誉教授
田村 実造	京大女子大学教授 京大名誉教授
都留 重人	一橋大名誉教授
長尾 雅人	鉄工短期大学教授 京大名誉教授
丸山 真男	元京大教授
三上 次男	青山学院大学教授 京大名誉教授
宮崎 市定	京大名誉教授
宮本 正尊	京大名誉教授

E. 職員

Louisa Read (専門員), 生田 滋, 後藤 明, 外池明江, 土肥義和, 直井靖夫, 西山敬子, 広瀬洋子, 藤井敏江, 松前義治, 森田嗣子

F. 臨時職員

昭和50年4月1日から昭和51年3月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は、以下のとおりである。

相沢真知子, 内野佳子, 大橋紀子, 真田 安, 設楽国広, 塚本千枝子, 林 俊雄

財団法人 東洋文庫年報 昭和50年度

昭和51年12月20日発行 非売品
発行者 東京都文京区本駒込 2-28-21
財団法人 東洋文庫
榎 一 雄
印刷者 東京都中央区湊 2-2-4
株式会社 第一印刷所
発行所 東京都文京区本駒込 2-28-21
財団法人 東洋文庫

本書は昭和51年度財団法人東洋文庫に対する文部省補助金の一部によって刊行されたものである。

